1－453

明治四十四年八月一日第三種郵便物認可
明治四十五年一月一日發行
（毎月一回一日發行）

廓清

第二巻第一號

主張 社會之改良・風紀之廓清・男女之貞潔・家庭之幸福

東京　廓清會本部發行

謹賀新年

四十五年一月元旦

井深梶之助　井深花子　服部綾雄　林歌子　羽仁もと子　本多庸一　本多貞子　徳富久子　戸川秀子　十時菊子　富永のぶ子　大隈重信　大関和子　渡邊鎌子　渡邊つね子　嘉悦孝子　高崎介藏　瀧本みつえ　武田淑子　綱島佳吉　根本正　名出昱子

植村正久　浮田和民　内ヶ崎作三郎　鵜崎庚五郎　小田川僊子　山室軍平　山室機惠子　矢島楫子　矢吹幸太郎　山田彌十郎　山本邦之助　松村介石　益富政助　福永文之助　福島四郎　小崎弘道　小崎千代子　小松武治　江原素六　寺尾愛子　安藤太郎　安部磯雄

粟屋榮子　阿部つる子　齋藤壽雄　山東泰子　城戸じゆん子　湯淺治郎　湯淺とき子　三輪田元道　宮田修　三並良　島田三郎　島田信子　島貫兵太夫　清水ふき子　清水たね子　日向輝武　日向きむ子　平岩愃保　元田作之進　角倉賀道　杉浦のぶ子

（いろは順）

廓清　毎月一回十五日發兌

定價表

一册（一ヶ月分）	金五錢	郵税五厘
六册（半ヶ年分）	金三拾錢	郵税三錢
拾貳册（一ヶ年分）	金六拾錢	郵税六錢

◎郵券代用は一割増振替貯金貳錢増

廣告料

等級	一頁	半頁
特別	金拾圓	金六圓
普通	金八圓	金五圓
一回分		

明治四十五年一月一日納本
明治四十五年一月一日發行

東京府下大久保百人町百卅八番地
編輯人　益富政助

東京市京橋區南鍋町一丁目一番地
發行兼印刷人　伊庭孝

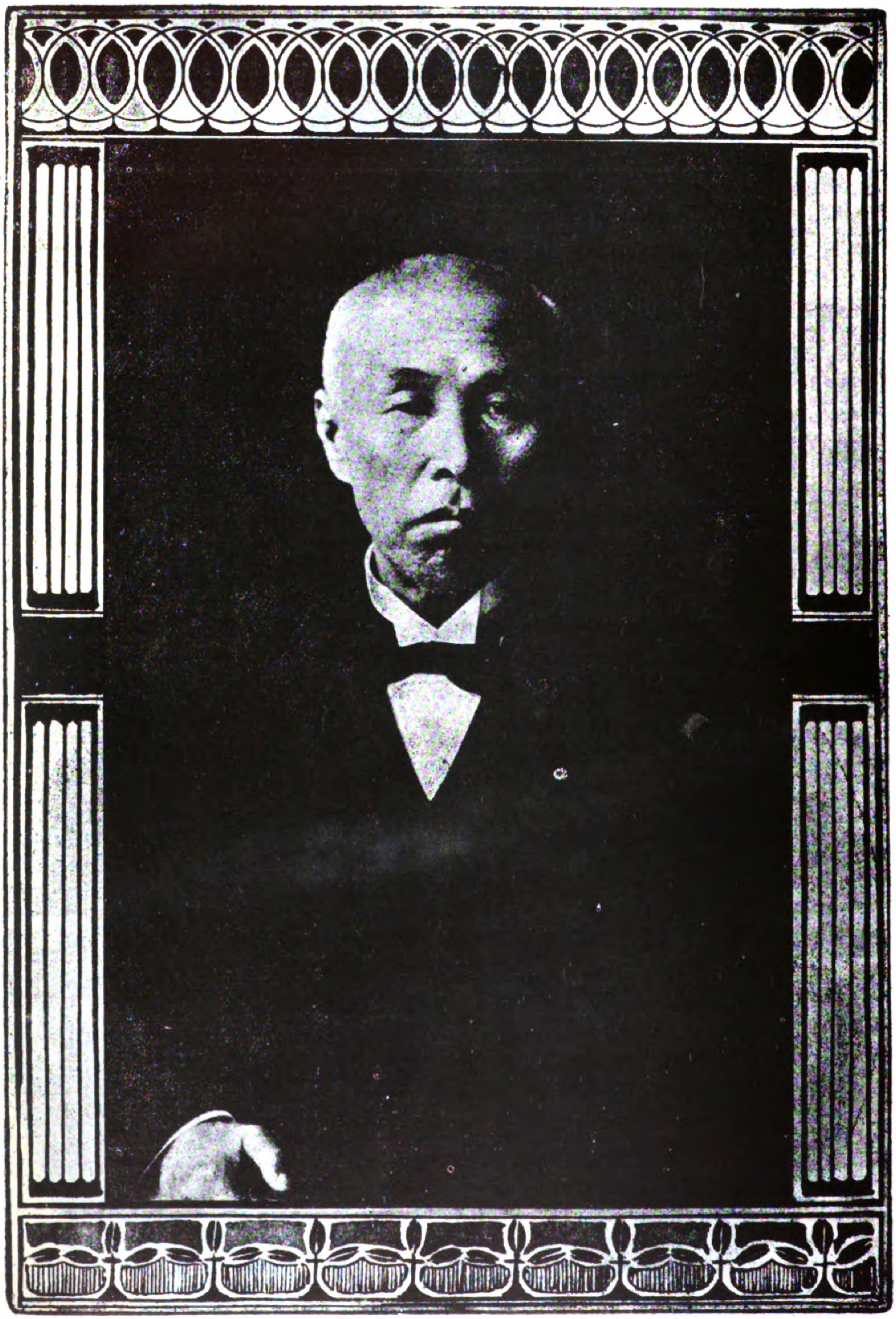
神奈川縣川崎町砂子百三番地
發行所　廓清發行所

東京市京橋區尾張町二丁目十五番地
發賣元　警醒社書店（振替東京五五三番）

大賣捌　東京堂、東海堂　北隆館、至誠堂

廓清會顧問

伯爵大隈重信閣下





廓清會々長島田三郎先生



廓清會副會長矢島楫子先生



廓清會副會長安部磯雄先生

廓清

明治四十五年一月一日發行　第二卷第一號

目次

會說

廓清會とは何ぞや

(其一) 放蕩禁止會

(一) 貞操道德高調の必要

廓清會とは何であるか。勿論之は公娼廢止を中心として起つた處の團體である。然しながら我々は、只徒らに廢娼論を唱へて世を騒がす者ではない、或る意味から云へば、公娼廢止は、たゞ他の目的を達せんが爲めの一の手段に過ぎない。他の目的とは何であるか、それは數多くある。併しながら、その内に於て、最も大切なる一つは、本會々則第三條の一節にあるが如く、『男女間に貞潔の德操を進むる』事である。諸君よ、我國の社會が要求する種々の矯風事業の中に於て、貞潔の德操を進むると云ふ事程、特に現代に於て必要にして且つ緊急なるものがあらうか。

(二) 嗚呼藝者萬能の時代

甚だ云ふを好まない事ではあるが、先日西園寺首相が、天下知名の文豪を招待された時に、その席上を斡旋した者は、數名の藝者であつた。新聞紙の傳ふる處によれば其席上で紀念帖見た樣なものが出來たさうであるが、それには西園寺首相及び明治の文豪の名を署せられ、其れと相並んで藝者の署名があつたと云ふ、かくて天下の宰相、天下の文士、天下の藝者の三幅對が出來た譯である。吾々は敢て宰相や文士を罵りて快とする者ではない。只今日の時代に於て、彼の藝者なるものが、如何に優遇せられて居るかを示さん爲めに、此事を引合に出したのである。見よ、東京市を西と東に疾走しつゝある自働車は、貴族富豪たらずんば藝者ではないか。かくて藝者は即ち貴族富豪と肩を並べて居る。日刊の新聞紙は慈善家や道德家の寫眞は載せないが、藝者の寫眞は殆んど毎日其詳傳と共に連載される。然り、而して退いて思へ、藝者とは抑も何であるか。吾々の調査した處に依れば、彼等の殆んど凡ては娼婦と同樣の業を營みつゝある所の者である。彼等が密かに貞操を賣りつゝあることは公然の秘密であつて、彼等はたしかに世間言ひ傳ふる如く醜業婦である。其醜業婦が今日の世に優遇せられ、重用せられ、可愛がられて居る事實に右の通りである。又見よ、美人投票といへば、其被選者は醜業婦ではないか。美人繪葉書といへば醜業婦の繪葉書ではないか。日本の現代の辭書では美人の「美」の字と醜業婦の

「醜」の字は、異字同意義の文字である。要するに今日は藝者萬能の時代否醜業婦萬能の時代である。而も此の不思議なる社會現象に對して、一つの反抗の聲だに無い。從つて醜業婦は益々跋扈し、此頃に至りては、綾羅を飾りて團體旅行をなし、地方に示威運動をまで試みつゝある。

(三) 節操無價値、破倫家大得意の時代

嗚呼醜業婦萬能の時代、言ひ換ふれば破倫家大得意の時代節操無價値の時代である。貴族や富豪は妾を蓄ふるも、毫も其の名譽に拘らない。所謂紳士は日夜醜業婦に戯れ、淫蕩に耽つても、其の信用を失ふことは無い。男子斯くの如くんば女子焉んぞ然らざるを得んや。所謂貴婦人の役者買なるもの亦盛んに行はれつゝある。嗚呼貞潔の道德界は、今や實に百鬼夜行のすがたである。

斯くの如きを思ふて我々は、種々高調すべき道德の多きが中に、貞潔の德操程、急の急なるものはあるまいと思ふ。

(四) 若氣の快樂とは何の謂ぞや

更に靑年の社會を見よ。「彼の男は中々放蕩する」といふものがあれば「何仕方がないさ若氣の快樂だ、誰れもありがちの事だ」とは通常世の中で放蕩なる靑年を庇護する言葉ではないか。而して此中に社會が其不德なる行爲を如何に輕視して居るかを表白して居る。酒に醉うて若き婦人に戯れたり、不潔なる快樂に耽つたりしても、其當人も亦側の者も、少しも怪まず、自分の家庭で親の前でも耻づる事なき無邪氣の樂と同樣に思つて居る。彼等の念頭には此の一口に『若氣の快樂』と云ふ事が古聖の所謂「人を滅亡と、沈淪に溺らす所の愚」即ち恐るべき罪であると云ふ考は皆無である。

(五) 必要の害とは何ぞ

世人は屢々放蕩家の行爲を辯護していふ。「之は昔から何時の世にもある事で致方のない必要の害だ」と。之れ實に大なる謬見である。若し「必要の害」「必要の罪」が世の中に存するを許さば竊盗も昔からある事だからとて同じ論法で許可して置かねばならぬ筈だ。故アンデレークラーク卿の如き著明なる醫者でも不道德なる行爲は決して必要でない。絕對的人間の靈魂にも身體にも大害であると公言して居る。我陸軍軍醫總監森醫學博士すら「性交の決して健康に必要なるものでない」事を斷言して居り、又自ら淸潔なる生涯を送つて居る幾百萬の男女が皆放蕩の必要を認めないのみか、不幸にして一度此の過失に陷つた人々すら皆不道德なる行爲の「必要の害」でなきのみならず、最も恐るべき災禍である事を經驗し、明言して居るではないか。

(六) 誘惑多き靑年に滿腔の同情を表す

かく云へば、若き男子に向つて同情のないやうに聞えるが決してさうではない。寧ろ我等は實業界敎育界政治界にも至る所社會の全體に充ち渡つてゐる不潔なる空氣に取りかこま

れて居る今日の青年には、滿腔の同情を寄せて居るのである。殊に天性意志の弱い人が日々幾多の誘惑に出會ふことを恐れつゝある樣を見ては轉た同情に堪えないものである。然れども此等の青年も、他の純潔なる青年と等しく、凡ての誘惑に打勝ち、安全に其勝利者となる事が出來ることを信ずるのみならず、古聖の所謂「娼妓の口唇は密を滴らし、其口は脂よりも滑なり、されど其終りは茵蔯の如く苦く兩刃の劍よりも利し」「それ娼妓のために人は唯一撮の糧をのこすのみに至る又淫婦は人の貴き生命を求むるものなり」との言が、實に前古三千年の人類の經驗であることを思ふ時、吾々は多くの人人か「牛の宰地に行くが如く、鳥の速かに羅に入りてその生命を喪ふに至るを知らざるが如き」有樣を傍觀坐視するに忍びない。否、青年に同情を寄すればこそ、益々彼等を誘惑より救ふの必要を思ふものである。「凡ての事に我等の如く誘惑れたれど、罪を犯さざりき」之の耶蘇基督の實驗は、敢て青年といはず、凡ての男女の模範でなくてはならぬ。

（七）名譽義團なり、放蕩禁止會なり

之を要するに廓清會は、一名「放蕩禁止會」とも稱すべきものであつて、英國に於けるアライアンス、オブ、オーナー（名譽義團）と謂つたやうなものである。（グレゴリー氏論文參照）酒を呑ます、又人をして酒の禍に惑らしめざらんとする人達の團體を禁酒會と稱ふるとすれば、廓清會は即ち「放蕩禁止會」であつて即ち此の誘惑多き社會に在つて、一般男女をしてその恐るべき誘惑より遠ざからしめ、互に節操を守り、純潔の德を進め、自から品行方正の男女となるのみならず、その周圍の人をして、品行方正の男子、貞操堅實の婦女子たらしめんとする事業である。

我等の友なるグレゴリー氏の談に依れば、英國の名譽義團は、今や頗る著しき功果を揚げて居つて、英京ロンドンの內外に會員を有すること二萬人餘り、先頃その總會を催ほせし時には、五千人の會員が集つて、盛大なる集會を營み、英國皇帝陛下は、功勞少なからざるを認め、親しくその年會に祝電を賜つたと云ふ。以て「名譽義團」が、如何に有効なる働らきを爲しつゝあるかゞ判るであらう。

要するに我が廓清會は、即ち斯くの如き事業を營まんとするものであつて、日本に於ける名譽義團である、道樂禁止會である、男女貞潔會である此意味に於て吾々の理想吾々の事業に反對せらるゝ諸君は一人もあるまいと思ふ。否反對する人のなきのみか、贊成せざる人は一人もあるまいと信ずる。故に吾等は切に諸君の入會を希望するものである。

即ち我々は、斯くの如き理想を有し、斯くの如き事業を營みつゝあるのである。然るに我國の公娼制度は、一名之を貞操賣買業とも云ひ、簡便道樂法とも云ふべきものであつて、吾人の理想を蹂躪し、吾人の働らきを阻害する此上もなき大妨害物であるが故に此の制度の廢止を絕叫する所以である。即ち前に徒らに廢娼々々と呼號するのみが本會の能事とする所で無いと云つた理由は、此處に在る。

文明と婦人問題

經濟會顧問　伯爵　大隈重信

抑々眞理の教ゆる所に從つて斯の如き偏頗な考へを改むることの出來ない社會は、不健全なものである。文明の競爭に堪ゆる事の出來ない民族である。夫のマホメット教國例へば波斯にしろ土耳古にせよ、若しくは近來やかましい摩洛哥にせよ、皆均しく婦人を虐待した國である。又佛教の教への盛んな印度暹羅亦此例に洩れぬ。

支那は佛教でないとしても、彼の國に盛んな儒教中には、隨分婦人に對する侮辱を含んで居るのである。そこで其等の國の現象は如何、何れも揃つて現在の世界的競爭に伴なふ事の出來ないものではないか。其國の萎靡振はない事はむしろ憐れむ可き有樣だと云ひ度いのである。支那の今日は御承知の通りである。而して例ひ共和國にならうと君主立憲國にならうと此國が一朝にして、多年積り來つた弊風を一掃し、文明の競爭に堪へる丈の完全な改革が出來るや否やは一大疑問である。

◎婦人にも亦英才少なからず

近時女子教育の進歩と共に女子にも男子と同等な教育を施こすやうになつた。ところが從來の樣な貞淑な性質は全く失

◎婦人問題は重大なる世界問題なり

一體婦人問題は世界に於ける重大な問題であるにも拘らず今尚未決の裡に葬られて居る譯は何處にあるかと云へば、畢竟此問題を我儘勝手な男子が、自分に勝手のいゝ樣に主觀的に決めんとするからである。併し乍ら近時學問の進歩殊に科學の長足の進歩に伴ひて、男女に關する心理的及生理的又社會的研究が盛んになつた。その結果從來の婦人觀に一歩を進むるに至つたのは甚だよろこぶ可き事である。併し之とても未だ餘程偏狹な所が尠なくない。元來國を異にし社會を異にすれば、從つて政治も異り宗教も違ふのである。併して此宗教や政治の内には婦人に對して、恐る可き誤まつた思想及び社會的勢力が蟠かまつて居るのである。就中斯かる政治や宗教に依つて出來た風俗や習慣は一朝一夕にして改まるものでない。だが眞理は自然の法則に依つて、顯はれて來るのは明らかな事である。其處で何時か斯る弊害の多い風俗習慣を破壞するに相違ないと思ふのである。

◎婦人を奴隷視する國家は滅亡的國家なり

せ果てゝ、たゞ我儘放埒といふ風を生じたのである。彼のやかましい女權問題の如き畢竟男子に對する反抗心を暴露したものに外ならぬ。併しながら女子が政治に參與す可きものであるや否やは別問題であるとしても兎に角、古來婦人が政治に容喙して國家に惡弊を流したことがあり、又善政を布いた例もある。併しながら何れの時代に於ても何れの國に於ても表面にこそ立たざれ、隱然内部より政治を助けた婦人は殆んど枚擧するに遑のない位である。殊に其著しき例は、朝鮮に於ける閔妃に見る事が出來る。彼の閔妃が存命中は宮廷宮外を問はず、大小の政治殆んど閔妃一人の双肩に掛つて居つたではないか。又支那に於ける西太后垂簾の政の如き支那帝國四億萬の民の運命を二十五年内至三十年間の久しきに亘つて支配した女傑じやないか。其處で女子教育無用論を唱へた過去の時代に於て、既に斯の如き女傑の輩出した以上は、將來に於て女子の政治的能力を認めない譯には行かないと思ふ。

元來今日に於てこそ英國に女子參政權運動などが起つたのであるが、今を去る半世紀以前の狀態は全く反對の傾向を呈して居つた。

當時一部の識者が腐心して、女子にも男子と同等の教育を授く可きものだと主張したのであるが、社會の先覺者たる學者は大に之れに反對したのである。處が大勢は何うしても動かす事の出來ないものと見へ、極めて保守的な英國に於て此運動が第一に開始せらるゝ樣になつた。然して獨乙に於ても亦此大勢に動かされて、女子の門戶を開放し、男子と同一の教授の下に、同一の講義を聽く事の出來る特權を女子に與へる樣になつたのである。其結果男子と同一の試驗を受けて博士號を許されると云ふ次第である。是れ僅に最近二三十年前に於ける歐洲先進國の情勢である。

◎婦人觀改まらざるべからず

然らば女子は果して如何なる方面に於て、最も能く其才能を發輝するかと云へば、之を過去の實例に徵すると、美術音樂文學に於て最も適する樣である。唯科學の方面に至ると餘り女子の天才が出て居ない。

處が最近になつて、女子の理學者も出來れば、堂々たる醫師も女子の中から出るやうになつた。そこで世には女子は智能の鈍いもの、思考力判斷力の劣つて居るものだと、自ら卑下して少しも努力しない女子が尠なくない。之では益々以て女子の地位を低くし、併せて自己の社會に對する責務を等閑に附するのである。それ故に女子も均しく社會の一員たる以上は、自己の天分を重んずると同時に、國家社會に對して何等かの貢獻をなさなければならぬ。

世界の大勢既に斯の如き有樣にも關らず、女子と小人は養ひ難しとか、女子は罪多きものであるとか、今尙往古野蠻時代の思想を其儘踏襲して得々たる男子があるから、女子に對する總ゆる問題も容易に解決が出來ない譯である。故に速かに斯の如き迷妄を打破しなければ女子の人間としての取扱ひも、教育の進歩も期待することは出來ないと思ふ。

公娼問題の三要點

廓清會評議員
法學博士　浮田和民

（一）公娼問題三種の觀察法

廢娼問題といふことは、西洋でも十九世紀の前半世紀頃から、少しく盛んになつて來た位で、まだ問題としては至つて新らしいので、從來此問題を研究して居ない所の者は、此賣淫制度に就て如何なる立脚點に立ち、又如何なる判斷を下したら宜いかといふ事が、往々にして自らも迷ひ、又其解決に苦むだ所のものでございます。私は最近少し自分で考た所の結果だけ、御參考に申上げたいと思ひます。

一體此忌はしい賣淫の存在といふことは、是は文明諸國に於ても隱れのない事實である、公然たる事實として文明諸國に存在して居るのであります。而して宗教家道德家は此事實を無視して、道德を說き又は宗教を說くといふので、其道德又は宗教どいふものは何等効能がないやうなものである。是は日本に於て事實であるのみならず、支那に於ても又た第一流の文明國と言はれる歐米各國に於ても事實である。而して十九世紀以來公娼制度の發達した爲に、益〻是が增長の傾向を呈して來たものである。そこで此事實は到底撲滅することは出來ないか、或は撲滅する望みがあるか、是れ第一の根本的問題であります。

是に就て私は三種の觀察法があると思ふ。第一は絕體的に賣淫といふものは罪惡で、賣淫をなす者は地獄にでも落つべき罪惡である。而して之を撲滅することに全力を注ぎ、それと同時に賣淫の業を營む者を絕體的に惡む態度を取るのが、通例宗教家道德家の立脚點であります。それから之に反對して醫者と政治家の立脚點はまるで違ふ。從來普通の醫者及び政治家——總ての醫者總ての政治家とは申しませぬが、普通の醫者及び政治家の立脚點は、到底是は事實であるから認識する外はない、如何に撲滅しやうとしても、撲滅は出來るものでない、賣淫婦の存在賣淫制度の存在が事實である以上、如何とも仕方のないものであると認め、唯其結果の害惡を妨ぐ爲に、出來るだけの方法を盡さう、さうするには先づ醫者の方からいふと、檢黴の規則を勵行し、黴毒の傳染を防ぐ事が第一の必要である。それから政治家の立脚點からいふと、風俗壞亂を防ぐ事が肝要であるから、先づ之を一箇所に纒め所謂遊廓制度といふものが發達したのである。醫者及び政治家は撲滅する事は不可能であるから之を保存して其害惡を防ぐ手段を取るのである。それには檢黴條例を設けて勵行し、

又公然認可したる所の區域を定めて、其處だけに此賣淫の區域を限るといふ事、是は醫者と政治家の普通取る所の態度であります。

（二）最近獨逸に於ける學者の結論

是に就て私の立脚點を申すと私は絶體的に道德家及び宗敎家の立脚點に立つて居るものではない。即ち遊廓制度又は公娼制度といふものが、果して社會のために黴毒を豫防する所の効果があるや否や、若し是が風俗壞亂の區域を狭ばめ、それが爲に社會一般の風俗壞亂を防ぐに効力ありといふことならば、私は醫者と政治家との立脚點に立つ事も、敢て辭せぬのであるが、果して公娼制度、遊廓制度及び檢黴制度なるものが、普通の醫者政治家の云ふ如く、黴毒の蔓延を防ぎ風俗の壞亂を防ぐ所の効力ありや否や、私は之を研究しつゝあつたのであるが、果して普通の醫者及び政治家のいふ如くであるならば、私は公然是等の制度に賛成しても差支ないと思ふて居る。

凡そ社會上の問題は、單に個人的道德の立脚點からばかり論ずる譯にはいかぬ。多數の利益多數の幸福といふ事を、標準とせんければならぬ。故に醫者と政治家の主張が事實であるか否かといふ事が第一の問題であります。

然に最近獨逸に於ける學者の說は漸々道德家宗敎家の立脚點に近寄つて來つゝあることは事實である。元來佛蘭西から起つて來た所の、檢黴制度又は遊廓公認制度は、最近專門學者の研究の結果段々公娼、遊廓全廢の結論になつて居るといふことは事實である。私は此事實を根據として今夕の講演を爲すのであります。

獨逸の有名な學者でアルフレッドプラシコー及び十年前までは檢黴制度を賛成して居つたイワン、ブロッホと申す人には今日遊廓及び檢黴制度を、廢止せよといふことを主張して居るのであります。最近の醫學社會學又は倫理學上からの、觀察の歸着する所は寧ろ道德家及び宗敎家の立脚點に、或點まで一致して居るといふことが出來る。私は或點まで道德家及び宗敎家の立場に立つて、やはり公娼制度と賣淫の惡風俗を撲滅するといふ精神に賛同するものであります。例へば傳染病の如き、或は又社會に流行する多くの病氣の如き今日幾らも撲滅の出來ぬ病氣が澤山ある。而して總の病氣を撲滅するといふことは、永遠に不可能であるかも知れぬが、併ながら之を全滅することが出來ぬからと言つて、醫者は決して療治の方法を怠ることは出來ぬ。それと同じく吾々社會に生活して居る者は、今日學術上の結論から見ましても實際上の手段として見ましても、一人でも賣淫の惡風俗から救出すこと一人でも斯の如き營業をして居る者を止めさするやうになすことに力を盡すことは、是は啻に道德上宗敎上の立脚點からばかりでなく、學術上正確なる結論として我々の最も努むべき所であると思ひます。

（三）公娼と道德の矛盾と現行檢黴法の無効

第一公娼を全廢するといふことは必要である。何故此公娼を廢すべきかといふと其の一つの理由は今まで道德家及び宗教家の云ふた所の點でありますが、斯の如き不道德行爲を營業とする者を國家が認めるといふことは一方に於て忠君愛國を說き、仁義道德を敎へる所の國家が、他の一方では淫賣者から稅を取り、淫賣者を公認するといふことは矛盾である、斯の如き不道德は、倫理上認容することが出來ぬといふ論であります。此理論は、今日と雖も正確なる理論でありますが併し此理由だけでは、公娼廢止といふ結論にはならない。斯の如き不道德でも社會の爲に利益であるといふ、證據さへあれば社會の爲めに恕せねばならぬ事となります。國家の爲に利益とあれば、平和論者といへども戰爭を是認するの止むを得ざる事と同一の理論であります。

併ながら公娼制度の事に付て、今日學者の研究の結果を申しますと、是は道德上不道德であるのみならず、衞生上風俗上少しも益のないといふことである。檢黴法といふものは黴毒の傳染を豫防する爲めに何にもならぬといふ結論であります。獨逸の學者は、數十年獨逸に於て佛蘭西の制度を採用して實行した其結果に付て、檢黴制度といふものは無用であると申して居る。何故かといふと賣淫婦の方では出來るだけ檢黴を避ける、又警察の方でも色々な手加減で、勵行といふことが非常にむづかしい。それ故檢黴法の如きは、法として存在して居るだけで實行の出來るものでない、而して甚だ不行屆のものである。道德上の問題は第二として、檢黴制度といふことは、少しも黴毒の蔓延を防ぐの効はないといふ結論になつて居る。而して遊廓のある爲に、風俗壞亂といふことは寧ろ甚だしい。此遊廓の中といふものは不自然なる事を奬勵して、種々雜多な罪惡を製造する所である。啻に不道德を行ふばかりでなく、不道德の研究所のやうなものであります。

(四) 公娼と私娼との利害

斯の如き制度を國家が公認するといふことは、益〻社會の風俗を壞亂せしめるものであるといふが、最近學者の結論である。故に寧ろ同じ娼妓であつても事實として存在する以上は、之を大目に見て置くといふことであれば、即ち私娼制度所謂密賣淫といふものゝ方が、遙かに風俗上又衞生上道德上宜しいかと思はれます。勿論私娼制度と雖も弊害の甚だしいことは同じ事である。英米の制度の如きを見ても弊害の多いことは分つて居る、賣淫といふ事のある以上は、弊害は到底之を全く防ぐといふ事は出來ない。併ながら公娼の制度に比較すれば、私娼の方が餘程回復の望みがある。第一道德上回復の望みがある。一度公然たる娼婦となつた所の者は、自分獨りで足を洗ふといふことは殆んで出來ない。自分一個の力では出來ないのであるが、私娼密淫賣であると、此望みが餘程ある。即ち止を得ざる事情があつて、一時の困難を防ぐ爲た婦人がさういふ事をやつても、後に自から改め貞節を完ふする婦人になることは困難でない。故に私娼制度であると道德上回復の望みが多くあるのであります。第二には衞生

上黴毒の蔓延を防ぐ望みがある、私娼で秘密に淫賣して居る所の婦人は、永久賣淫をするつもりでないから、努めて衞生に注意する、從つて黴毒に罹らない、若し罹つても力を盡して全治を圖るから、決して公娼に於るが如く、隱して置くといふやうな弊害はないのであります。第三には私娼であつて見ると、餘程自由の人間に近い、公娼の如きは殆んど奴隷……殆んど所でない全く奴隷で、人間を一つの家畜の如く取り扱つて、牢屋の中に入れて置いて、さうして人肉の販賣をするやうなものである。實に是は慘酷極まつた事で、實に云ふに忍びぬ事であります。

是等の原因からして公娼は黴毒豫防の効果なく、又風俗壞亂といふ點から言つても、私娼制度の方が全體に於て其害毒が少ない。尤も一定の區域が限つてないから、秘密淫賣婦は時と所を構はず跋扈するといふこともあるが、併しながらさういふ者に捕はれるやうな人間は、如何なる方法を設けても、何處かに於て墮落する事と思ふから、寧ろ國家はさういふものは別に制止せずして放任し置く方が、公認して檢黴するより、全體に於て弊害の少いといふ結論になるのであります。

そこで私は公娼撲滅といふことは賛成致します。山室君の如く熱烈なる運動をすることは出來ないが、理論上全然山室君其他の廢娼運動者に助力する。何處までも後から附いて行く事は辭せぬつもりであります。運動は出來ないけれども運動の邪魔をせざるのみならず、却つて運動の後押しをするつもりであります。

（五）廓清の根本問題と賣淫婦發生の理由（一）

それから單に此公娼を廢するだけではいかぬ、今山室君も言はれたが、唯遊廓を廢するといふだけではいかぬと思ふ、唯公娼制度を廢止すれば、廓清會の目的は達せりといふ譯でない。是はどうしても今の私娼までも撲滅するといふ決心と其手段を執らなければいかぬと思ふ。唯公然やらなければ秘密にやることは許すといふ事ならば道德上公認したのと同じ結果になりますから、私は第一公娼を廢止する所の手段を執ると同時に、第二には私娼撲滅の方法も執らぬければならぬと思ふ。

之を爲すには先づ何故賣淫婦が起るかといふことを研究しなければならぬ。賣淫婦となるには、種々の原因がありませうが、私は貧困が主なる原因であると思ふ。即ち社會の經濟狀態が多くの婦人をして、賣淫婦たらしむるに至ると思ふのである。而して何故多數の婦人が貧困に陷るかと申しますと其原因は種々にして一つではないでせうが、無教育といふ事が、主なる根本の原因であらうと思ふ。無教育といふことは第一學問をして居ないといふことも其中に含むが、女子に學問をさせぬから其の思想は唯身の周圍であるとか、化粧だとかいふやうな事だけで、考る所の材料が乏しい。而して見る所のものは、唯虛榮心を促すやうなものばかりで、外の者が立派な着物でも着て居ると、自分もどうかして彼のやうな立

派な着物を着て見たいとか、或は働かずして暮して居る婦人を見て、如何にも樂で結構である、自分も勞働せずして生活したいといふ樣な考から、隨分賣淫婦になる者も尠からぬのであります。

特に從來女子は無教育である爲め職業を求めて、得る事能はぬ者が多いのであります。昔の世中、即ち半開野蠻の時代とか又は日本の維新前の如き單純なる社會生活の時は、大概結婚といふ事が出來たのでありますが、今日の如き文明の生活をなす時代に於ては、結婚といふことが非常に困難である男子に取つても女子に取つても困難である。生活の標準が高くなつて來た爲に、昔のやうに容易に結婚することが出來ないのであります。

（六）婦人と生活難

歐羅巴邊りの先進國の傾向は、男子が殖民地に移住するとか、或は新開地に出稼するとかいふ爲に、婦人は多く故郷に殘される。又今日の如く工業制度によると、婦人の方が男子より勞銀が安いから、資本家は大いに婦人の勞働者を歡迎する、從つて婦人は多く結婚せずに勞働者となり、或は店の女となつて働くといふやうな、危險なる位置に今日生活して居るといふ有樣である。それで種々なる誘惑に陷つて、つまり表面は立派な店の女でも、其內實は賣淫婦であるといふのが、歐米の狀態であるといふことを度々聞くのであります。

婦人に業を授けないとか、或は婦人に學問をさせぬといふ其結果婦人は職業を得られない得られても賃金が少ないから自然賣淫といふことになつて來る、つまり婦人は多くの場合結婚するか賣淫婦となるかといふことになるのである。だからして此結婚といふ事も、從來の有樣では餘り名譽でない、やはり法律上の賣淫制度であるといふ人もある位であります。

斯の如き弊害が今日あるのであります。而して人口の輸出即ち、男子が新開地及殖民地に移住するといふやうな事から英國其他の歐洲諸國に於ては女が多く男が少いのである。十九世紀の中頃英國に於て結婚しない女の數が、百七十萬以上で、未婚の男子が百六十萬以上あつたといふ事である。今日では人口增加と共に、尙甚しく進むで居ると思ふ。斯ういふ風でありますから、多數の婦人は結婚せむと欲しても、其對手がない。それ故止を得ず結婚せずに、女らしい職業を營むとしても、從來男子が職業を獨占して居た結果、容易に其職を得る事が出來ない。出來ないから貧困になる、貧困になるから賣淫婦になるといふ事で、是は寧ろ社會が彼等をして、賣淫婦たらしむるのであるといふても宜しいのであります。

（七）惡遺傳と結婚問題

それから賣淫の原因は之ばかりでなく、惡遺傳……伊太利のロンブロソーといふ人の研究した結果、女子にして生來淫賣婦の性質を有つて居る者がある。併し是は至つて少數である。少數ではあるが、其少數の中には男子以上の好色家もあ

るといふが是は至つて少數で、惡遺傳で賣淫婦となるものは稀であると思ふ、併ながら是も亦一つの原因……賣淫婦の生ずる原因である。併し惡遺傳の原因は女子ばかりにあるのではない、男子にもある。凡そ惡遺傳性の人間は、將來非常に之を檢束しなければならぬと思ふ。自由結婚などゝいふことを、無暗に云ふ人があるが、學術上の結論に依ると、惡遺傳のある男女には、結婚の權利を與へてはならぬといふことになります。社會の爲め惡遺傳の傾向ある男子及び女子は、結婚の資格を與へてはならぬ。法律上結婚の權利を止めるといふ事が必要と思ふ。

亞米利加合衆國の諸州に於ては、惡遺傳の傾向ある男子又は女子は、或は結婚を禁じ或は外科手術を施し……去勢して差支へぬといふ法律がある。（笑聲起る）諸君は笑つて御聽きになるけれども、實際合衆國の或る州では法律となつて居る所がある。而して是は最も進歩した結婚法と思ひます。今後日本に於きましても、此結婚條例といふものが必要と思ふ。即ち惡遺傳の傾向ある者は、結婚の權利を與へないで、而して姙娠する力のないやうにして豫防すべきであると思ひます。

（八）貞操に對する社會制裁の不公平

それから是は最も私が今日の婦人の爲に悲む所でありますが、即ち今日の賣淫婦の中には、賣淫婦とならずして濟む所の人が澤山あらうと思ふ、社會の輿論が餘りに嚴酷に過ぎ婦人に對する所の……婦人の節操に對する、道德思想が大いに間違つて居ると思ふ。即ち惡遺傳に非ず、無敎育に非ず、而して貧困者でないものが、一時の誤りで節操を破つた場合女子をして、終身浮ぶ瀨のないやうにするのは、實に慘酷である。併し是が今日の社會の輿論社會の普通の道德である。而して男子はどうかといふと、一度や二度所でなし、始終姦淫をし賣淫を犯して居るといふ有樣である。是は日本ばかりでなく歐米諸國皆さうである。文明世界一般にさういふ傾向になつて居る。殊に男子は男らしくなくてはいかぬといふ所ろから、さういふ事を男子の誇りとして居る。所ろが女子の方は一度でも誤まつて斯の如き事をなせば、男子は忽ち之を離緣する、離緣されたる女子は最早や社會に容れられない誰も再び結婚するものがないといふ所から、社會に於ける立場を失つて、さうして墮落した婦人の社會に落込むといふことが今日の狀態であります。

そこで先に申しました私娼制度の存在といふことも、或は英米の如くして置けば、公認と同樣な結果になる。倫敦紐育等に於ては、白晝賣淫婦が徘徊して居るといふ事は公然たる事實である。今日では英米は公娼制度でないといふて大いに誇つて居るが、私は是は五十歩百歩で別に誇るに足らぬ事と思ふのであります。然して之を撲滅するには、それだけの道德的決心と、社會的制裁を今後加へなければならぬ。さうするには賣淫婦となる所の第一の原因たる、貧困より救ひ、さうして婦人が經濟上獨立の出來るやうにするのが必要であり

ます。而して經濟上獨立の出來るやうにするには、教育を施すが又必要である。勿論生噛りの學問をさせると、女子の虚榮心は増長するが、十分に教育すると男でも女でも、態度が沈着になつて來るのであつて、一知半開の間が男子でも女子でも威張るので、虚榮心を滿すといふやうなことになるが、深く學問すると男子でも女子にでも自分の無識なることが分つて、大抵の學問をしたところで誇るに足らぬといふ事が分る然して實際的の教育を施すといふと、生活の途が出來て來るから、自ら婦人は虚榮に流れず、實際的に生活の途を計るやうになる事が出來ると思ふのであります。

(九) 病氣と醫者との關係より見たる吾徒の責任

最後に私の申上げたい事は、社會の道徳的輿論を改むることが根本的に私娼を撲滅する爲に必要であると思ふ。即ち男子が屢々姦淫しても、社會が大目に之を見て居るといふ事ならば、女子にも一時で誤つた事があつても、直ちに之を奈落の底に落すやうなことはしてならぬと思ふ。即ち男子でも女子でも、道徳上やはり平等の點に立たなければならぬと思ふさうして此平等の點に立つといふことは、積極的に立てなければ先づ消極的に平等にすることが必要である。男子が女子の如く節操を守ることが出來なければ……自分が不道徳な人間であるなれば、自分も寛大な氣を有つて少しは女子の不道德を看過しなければならぬと思ふのであります。

まだ吾々は賣淫制度や、公娼問題に付きまして至つて研究が出來て居ないと思ひますし、又此問題は永遠の問題であつて、社會全體の組織が完全にならないと、男女の道徳を完全にするといふことは、不可能かも知れませぬが、併し少しでも其弊を除くといふことは吾々の本分であると思ひます。病氣は人間世界から全滅することが出來ないとしても、醫者は何處までも力を盡して之を治すべきである。是が醫者の努めであるならば、吾々も之と同じく、一人でも多く賣淫婦を救ひ、一人でも多く賣淫の營業を爲して居る所の者を、廢業せしむるといふ事は是又社會の完全を、一日も早くする所の道であるから、道徳上又學術上是非共努めなくてはならぬ所であると思ひます。

非公娼論

樞密顧問官 文學博士 法學博士 男爵 加藤弘之

◎婦人の地位を進むること

突飛な女權擴張論には、苦々しいこともありますが、婦人の本當に進歩することは、家のためにも國のためにも喜ぶべきことであります。いつまでも女子供と云はれるやうに、何

等のとりとめた考もなく、人格もなく、家庭に於ても、社會に於ても、極端に云へば奴隷のやうな位置に甘んじてゐるといふことは、獨り婦人のみの不幸でなく、男子のためにも家のためにも國のためにもよくないことであります。婦人の人格を高め、それに伴うて、段々にその位地を進めて行くやう、希望し、盡力することは、必要なことだと思ひます。

私は御承知の通り、基督教を好まないけれども、基督教徒のいひ出してゐることでも、道理のあることには賛成したいと思ひます。公娼廢止の問題は、矢島揖子さんなどが主に運動して、撓まずやつて居られるやうだが、それに對して世間はいつまでも冷淡にしてゐる。大概の婦人雜誌では、僅に此運動の集會のあつたことなどを書く位のものゝやうに思はれるが。本當に婦人の位地が高まつて行かなくてはならぬと思ふならば、公娼廢止のことなどは、看過することの出來ない問題だらうと思ひます。

◎公娼と密賣

公娼をやめると密賣が行はれる、病毒はどうのといふけれども、それでは公娼を置いてあるために、密賣が完全に取締られてあるか、公娼のおかげで密賣がなくなるのならば、この説にも一理あることだけれども、事實はさうでない。唯程度の問題である。公娼のあることはいくらか密賣を少くしてゐるのかも知れないけれども、人間としてかゝる恥づべき仕業はあるまいと思はれる。この事が一の職業として公に認められてゐる。貧苦に責められるものや無智な乙女がこれに投ずる。一方ではかゝる場所のあることは、或種類の男子のために力強い誘惑になるといふやうなことを思ひ合はせて見るといふと、密賣をいくらか少くする位の効能とは、とても秤にかけることが出來ない。公娼を置くことは、ます〳〵その地方の風儀を亂すことになり、廢することは却つて隠れた風儀もよくするものだといふやうな話もある。

◎習慣の惰力

私は此事に就て自分に何の調査をした譯でもなく研究をした譯でもないけれども、密賣豫防のために公娼を置くといふことは口實に過ぎないやうに思はれる。唯長い間の習慣で何となくあゝいふものはあるものだと云つたやうに、人の頭を支配してゐる。この習慣の勢力が、進んで公娼を廢したいといふ一部の人の熱心な希望よりも强大である。公娼の廢止されずにゐるのは、廢することの出來ない本當の理由のある譯でなく、習慣の勢力のためにまだ一般の人心は公娼のあることを左程に恥ぢと思はない。從つて進んで打破す氣にもならないといふやうな譯で存在してゐるやうに思はれる。

一つは公娼廢止のことが、主に基督教徒の運動のやうになつてゐるので、人氣を呼び起さぬといふやうな點もありませう。一般の教育界並に婦人社會婦人雜誌などで、今すこし熱心に此問題に注意して盡力するやうになつたならば、必ず功績を擧げることが出來るだらうと思ひます。

婦人の位置を高め人格を高めるといふのには、まづ此のやうな障害物を除くことが必要でありませう。（婦人の友）

歐洲に於ける廢娼の事實

萬國廢娼同盟會
英國支部幹事　モーリスグレゴリー

◎歐洲に於ける公娼制度の由來

公娼制度は那破翁の征服時代に始めて歐洲に輸入せられ、其後各國に擴張せられ、最後に那破翁時代を去ること頗る遠き千八百六十四年、千八百六十六年及び千八百六十九年に海軍及び陸軍を中心として此制度は英國に輸入せられたのである。而して此一八六九年には實に全英國民間に此制度が普及せられたのであつたが、其後千八百八十三年には一時中止することゝなり、終に千八百八十六年に法律を以て斷然禁止するに至つた。而して此十七年間は大なる論爭を繼續したのである。然し其盛んなる時にも十八個の海軍及び陸軍の中心地以外には決して擴張せられず、且つ英國は歐洲列國中此制度を廢止したる急先鋒であつた。即ち千八百七十五年に英國に於ける反對運動の第一の驍將たる夫人ジョセフ、イー、バットラー孃が歐洲大陸に出陣して此制度の廢止を絶叫し、同時に萬國公娼廢止同盟會が組織せられた。此同盟は今や八箇國の國語を以て公表せられ、二十個の支部を以て代表せらるゝに至り、其本部は瑞西國のゼネバなるデュビーカーレッヂ街（Rue du Vieux College）に置かれ、英國委員の事務所は倫敦市の西南區トットヒル街の十七及び十八番地に置かれてある。

◎歐洲に於ける妓樓制度の問題

（イ）歐洲を通じて人身を直接に賣買することは日本の如くに法律を以て絶對に禁止せられてある。

（ロ）歐洲中妓樓の存在する處には自ら人身賣買が間接に行はれる。

（ハ）種々の法律規則が此人身の間接賣買を妨がんが爲に設けられた。

（ニ）妓樓の尙存する國に於ては概ね娼妓の自由廢業を許し樓主に對する負債は以て彼等の自由を拘束するを得ざる旨を記載せる達旨を家屋の中に揭示して居る。

（ホ）檢査官は此等の法律が實行せられつゝあるや否やを監視するが爲に、定期に妓樓を檢査するのである。

（ヘ）此等の法律規則あり、又此等の檢査官あるに拘はらず妓樓の存する所には尙事實上奴隷の存在を認む。警察署長は正直にして且つ善良なる人多きが故に收賄等の破廉恥行爲はないが檢査官は之に反し其業務の卑きが爲に下賤なる者多く

且其受くる俸給の少額なるが爲に賄賂をも甘受する者がある之に由つて娼妓は種々なる方法によりて欺かれ且つ脅迫せられつゝあるも之を救ふことが出來ぬのである。故に妓樓を全然閉塞せしむるにあらざれば此營業を停止せしむる事は不可能の事なりとは、婦人救濟事業家及び廢娼事業に興味を有する人々の意見である。

(ト)妓樓の存在する所には婦女の誘拐に從事する男或は女の惡辣なる手段の盛んに行はれつゝあるは事實である。そして此等の人々に對して歐洲各國には各々嚴密なる法律を設けて取締るにも拘はらず罪惡は常に行はれて居る。彼等の間には其仲間の內規あつて巧みに法網を潛ることが出來るやうにして居るのみならず、妓樓側では婦女誘拐者に對して多額の手當を與ふるが故に一切の危險をも敢て犯すに躊躇しない。

(チ)千八百八十三年に於ける此制度の一時の中止及び千八百八十六年に於ける廢止の後は妓樓なる者は英國中に一戸も無くなつた。千八百八十五年の刑法改正案の通過後は、何人と雖も不道德なる目的の爲に婦女子の會合する家屋の所有者及び居住者に對して起訴するの權利を有する事となつたが、其目的物たる婦女子は無罪放免たるを得たのである。而して警察官は此法律を實行する爲に市民より撰ばれたる委員の扶助を受るを常として居るが、此等の事件に必ず關係せねばならぬ必要はない此結果たるや、英國に於ては懸る家屋の居住者は一旦といへども其財產の保有權を有せざることゝなりしより、其家に住居する婦女は極めて少數のものになつてしまつた。而して斯の如き婦女のために如何に多大の價を支拂ふとも樓主に取つては何等の利益なきのみならず、而かも己れは法律上の犯罪者とならねばならぬ。

(リ)然れども萬國貿易の關係上英國は尙取除くことの出來ない危險を持つて居る。といふのは、婦人が外國に誘拐されて行つた時に少しも其言葉が分らないために例令飛んでもない所に連れてこられたと悲しんでも、最早それを如何ともすること能はず、其狀態は實に悲慘を極むる。斯くて外國に行かば何も彼も望みの通りになるやうに種々の甘言を以て惑はされ大なる災に陷ゐる英國の少女も少なくない。此故に之を保護せんが爲に、英國の先帝エドワード陛下の姉妹にて、今帝ジョージ陛下の叔母君に當らせらるゝアルバニーの公爵夫人を其會長に戴ける、婦人の奴隸賣買を禁止せんとする萬國同盟會の組織を見るに至つた。そして此同盟會は歐洲列强間の同意を得て歐洲各國の貴族及び皇族の多くが組織したる種種なる團體の中に同じ目的を以て行動しつゝあるのである。

(ヌ)前述の理由により此公娼制度は歐洲を通して減少しつつあつて、過去五十年間に、最先に此習慣を輸入せられたる佛國の各地でさへも妓樓の數は驚くべく減少して來た。即ち巴里の妓樓の數は二百二戸より四十戸に減じ、里昻にては五十四戸が十七戸に、マルセーユでは百二十五戸が三十戸に減る等全國を通じて皆減少を示したのである。一時は歐洲中に於て最も整備せる市街の一なる伯耳義のブルッセルに於て

も妓樓は四十二戸より七戸に減じ、アントワルプにては二十九戸から三戸に、リージにては三十三戸から九戸に減少し、他も之に準じて減少したのである。露國に於ても聖彼得斯堡に於ては二百十戸より六十四戸に減じた。此は佛國政府が此制度を研究せんが爲に設けられたる新委員の諮問に答へるために提出されたる數字である。

勿論妓樓の外に此種の罪惡の行はれつゝあるは事實であるが此數字に由つて何れの國にても妓樓制度が壞滅に歸しつゝあることを見ることが出來る。蓋しこれ歐洲諸國民が如何なる法律を設くるも此制度には必然伴なふべき人身賣買を嫌ひ且之を恥づるに至つた爲である。

（ル）尚此事に關する最近の事實として擧ぐべきことは一昨年四月露國に於て公娼制度を研究せんがために特別の議會が開かれた。而して二百五十人の代議士が之に出席した。露國に於ては何事によらず政府の希望に反對せる事を述べんとする會議は警官が直に起立して之が停止を命ずる習慣である然るに此議會は政府の法律に反對する討議なるにも拘らず之を許可して停止を命ずることもなかつた。之れ露國政府が如何に妓樓の價値の少なきかを認めて居るかを示す事實であつて此議會に於ては全然妓樓の廢止を要求する強力なる決議をなし臨席せる警視總監は沈默して其席にあつたのである

◎公娼廢止は健康上に危害を及ぼすこと斷じてなし

英國に於ける妓樓制度は一千八百八十三年より同八十六年に至る間に於て終焉を告げた。是が歐洲に於いて公娼を廢止したる最先鋒であつた。英國に於ても他の大陸諸國に於ても立法官は世人の唱導せる如く之が爲に健康狀態に大なる不幸を來さんかを懸念した。妓樓制度は之に由りて出來た黴毒を假令減少せしむるを得ずとするも、此制度の爲に黴毒の助長を防ぐを得たるに、今之を廢止せば其が爲に黴毒の蔓延を來さんかと恐れたのである。然し事實は之に反し反對の結果を顯はした、次の事實は政府の統計局長に年々送られたる數千の醫師、陸軍省、海軍省の軍醫局よりの報告等より得たる者である。

（イ）英蘭土とウエールスに於て黴毒の爲に死亡したる人員の數は千八百八十四年には百萬人中九十五人であつたものが千九百九年には同じく百萬人中五十八人に減少した。

（ロ）又黴毒の遺傳の爲に生後一年間の小兒の死亡數は千八百八十四年には十萬人中二百三十人であつたが、千九百九年には十萬人中百三十五人に減少した。

（ハ）黴毒の爲に徴兵檢査に不合格となりたる壯丁の數は千八百八十四年には一萬人中百〇六人であつたが、千九百九年には一萬人中十八人に減少した。

（ニ）英本國の陸軍に於ては兵士千人中黴毒の爲に病院に入るを許可せられたる者は千八百八十四年には七十一人であつ、たが、千九百〇九年には六十六人に減少した。尚又此等の數字は同一患者が其年に數回入院したる場合に於て毎回一人と

して計算したのであるから眞の患者の數は此より甚だ僅少となる譯である。

(ホ)同樣の現象は海軍にもある。即ち千八百八十四年に病院に入るを許可せられたる者は二百三人であつたが、千九百四年には百十二人に減じた。千九百五年には海軍の支配せる面積と其性質とに大なる變化を生じ、最早や前年と比較するを要せざる事となつたのである。

◎文明國民間に此制度に代りて起れる他の團體

斯くて英國にては諸方面に於て、此罪惡の爲に起されたる黴毒が廢止後確かに減少を示した。此減少の原因は此迄行はれたる十八個の陸軍及び海軍の中心地に於ける此制度の廢止以外には求むべからざる事である。然して此廢止が人々をして社會の罪惡に對する責任を自覺せしめ、此等の事に付て少年及び兒童の敎育を良好なる針路に導かんとする大にして且つ安全なる運動等善良なる方面に多數の組織を見るに至つた今其中の一二を次に紹介する。

(イ)日本の有名なる前文部大臣菊地男爵が先頃倫敦大學に於て爲されたる最も價値ある講話の終りに日本に於ける女子敎育の現今の制度の目的を說いて「明治年代の男子に適當なる補助者にして且つ有力ある同伴者となり、日本の未來の時世を造り出すべき高尚なる母、即ち良妻賢母となるに適せしむるにあり」と云はれた。吾人は吾人の側より此語に註釋を加へ英國の言論界は益々「吾人は二十世紀の婦女に適當したる補助者にして且つ有力なる同伴者となり、英米國民の未來の時世を造り出すべき高尚なる父、即ち良夫賢父となるに適せしむる」樣青年を敎育せねばならぬと主張しつゝある。如何なる國民も單に母のみにて改良することは出來ぬ。必ず父の之を助くるを要するのである。そして少年は斯ゝる父となる樣に敎育せられねばならぬ。此敎育には取分婦女に對して男子をして貞操を守らしむるやう高調せねばならぬ。男子が成長せる時に、自分の姉妹が待遇せらるゝを欲せざる方法を以て他の婦女を待遇するが如き行爲なき樣敎育せねばならぬ。之と同時に實行し得べき一定の方法に由て、尙成長しつゝある少年及び青年として充分に、男女間の悖德行爲に陷らざる樣堅固なる性行を造らねばならぬ。彼をして自分の身體が如何に貴重なるかを知らしめ如何にして之を保持し得べきかを明かに且つ確實に敎へ込まねばならぬ。醫學博士にして、少年間に卓越せる成功を收めたる指導者たるシルバルン、メリル氏は嘗て、米國の少年俱樂部にて言つた。「道德を推論することは兒童の魂を保護すべき方法にあらず、寧ろ戰鬪によつて其道德力が養成せらるゝに至るものであるから兒童は先づ敵を畏れざるやうになるの必要がある。」

(ロ)少年及び青年學生等が如何にして休暇の時間を費やすべきかの問題は陸軍部內に於ける妓樓制度の代用と題せる章下に論じよう。

(ハ)次に順序として青年は此等の事に付て互に相助け合ふ

事の大なる利益たるべき事を云はねばならぬ。青年を助くるには他の同年輩にして而かも主義あり、教養ある青年に優るべき人がない、そこで吾人は歐洲に於て此種の多數の團體を有する。其中最近に出來た余が最も善く知れる、且つ其の殆んど始めから委員として行動すべき名譽を荷へる團體は名譽義團（Alliance of Honour）と稱するものである。此は始め倫敦市の二人の手代が其業務の餘暇を以て企てられたる者であつて、最初其事務所は全く一私人の居宅の第三階にあつた。今日では其が次第に發達して二萬の會員を有し、倫敦市の殆んど中心に近き所に事務所を設け、六十人の幹事が毎夕己が本業を終りたる後の餘暇を以て週番に無報酬で、起り來れる事務を取扱ひつゝある。而して全英國を通じて七百の地方幹事を有し英國の他の部分に於ても無報酬で、其地方の二十人なり三十人なり又は其以上の少年の一群の中心となつて、工場又は事務室、或は其他如何なる處にあるも其人々を助けんが爲に出來るだけの力を盡しつゝある。尙陸軍にも海軍にも支部幹事を置き、以て大に之を擴張せんと希望して居る。其最近の計畫の一つは英國、獨逸或は瑞西の青年が働きつゝある極東の各都市に地方幹事を得んとして居ることである。委員として余等の如き老人は勿論出來るだけの方法を以て彼等を助くる事を厭はぬが大抵の事は皆青年自身をして爲さしめ余等は唯傍觀するのみである。又吾人は解決を要する或特殊の問題の爲に顧問として醫學博士を囑托して置く。彼の有名なるサー、アレキサンダー、アール、シムプソン氏は此顧問委員の一人である。此等の醫師は屢々起り來る醫療上の事件に關しては直接何等の行動をなさずして、斯ゝる場合に於ける醫療は會員中の醫師即ち其友人たる者の爲すべき事になつて居る。名譽義團が發行する冊子は批評を受け且つ承認を得んが爲に此等醫學博士の委員の手を經て發行せらるゝ。そして有名なる人々の多くは此團體の副會長となつて居る。最近の年會に於て英帝ジョージ陛下は熱心なる同情の電報を寄せられ出席せる五千の青年は熱烈なる感謝を以て之を受た。

（ホ）余は和蘭に於て多年行はれつゝあつた、そして娼妓制度を其に由つて破壞したる「個人に對する夜半の傳道」（The midnight mission of men to men）と名付けたる大運動を話さずして、此問題の此部分を終る事は出來ぬ。和蘭にては此會の支部の多數が各地に設けられてある、此會の運動員は妓樓のある市街の各兩端に立ちて、苟も妓樓街に入らんとする青年を見れば、直ちに近寄つて之に話しかけ、親切に其登樓を諫止するのであるが、此方法は屢々成功した。彼等は大なる活字を以て其首字を印刷したる、感ずべき語、例へば「今君の母又は姉妹が君を見たらんには何と云ふべきか」などの如き語を印刷したる紙片を有つて居て之を登樓者に渡す。田舍より上り來りて、未だ曾て斯ゝる所に足踏した事のない青年なぞは此等の文句を見て大に感じ、其生涯の進路を誤らんとしたるを喰止められる。そして妓樓の多くは此が爲に營業を防害せられ、全く停止せざるを得ぬ事となり、遂に妓樓制度が全然廢止せらるゝに至つた。（本號完結）

雜誌之雜誌

今や雜誌の發行日に月に増加し、殊に婦人、及び家庭向の雜誌に於ては所謂雨後の筍の如く、殆んど其何を讀むべきかを擇擇する暇すらなき程であります。是故に本誌編輯部に於きましては、敬愛なる會員諸君に代りて、あらゆる雜誌新聞に目をとほし、其有益なる記事健全なる思想、趣味深き話を可成廣く且多く蒐集する事に致しました。

名流談海

今上天皇陛下

淺田江村

今上天皇陛下には今春を以て聖壽六十一歳とならせ給ふ。俗間に所謂還暦祝賀の御年に相當したまへり。新年に際して此一事最も敬祝すべきなり。

抑も陛下登極以來四十有六年の長きに及び、國家の隆昌繁榮は前代未聞に屬し皇威の振張は恐らく歷代比類を見ざる所而して益々御健勝に渡らせられ、近く昨秋も例年の如く、龍容堂々大演習を統べさせられ、數萬の壯丁と共に、遠く筑豐の野に馳驅したまへり。御高齡此の如く御元氣此の如く旺んなる、亦蓋し御歷代中稀れにある所たり。是れ實に芽出度き限りにして、我等の恐悅措く能はざる所なり。(太陽)

日本の鐵道は何うして出來た

伯爵　大隈重信

日本人が始めて鐵道を見たのは幕府の時條約批准交換の為亞米利加に使節となつて行つた小栗上野介、新見豐前守、村垣淡路守の三人である。

即ち安政六年米國の軍艦ポーカトンに坐乘して太平洋を渡り、パナマに着き鐵道によつて地峽を横斷して太西洋の對岸に出た。其が今より五十年前の事で、日本人が茲に始めて鐵道を見且つ乘つたのである。其から使節は紐育に行つて、今度は鐵道のみならず有ゆる文明の利器を見たのである。一行の者殊に小栗上野介は深く西洋の文明に感歎し、歸國後は大に改むる所あらんと企てたが、萬延元年に歸國して見れば國內は上を下への大騷ぎで、小栗の計畫も遂に中止となつた。

其後明治二年になつて我輩と伊藤とが言ひ出して愈々鐵道を敷設する事になつたが誰も分らないそこで印度の鐵道を作つたモレロと云ふ英人を雇入れ其人から種々鐵道の話を聞いた。

今でこそ驛夫でも轉轍手でも飛入りの日本人で出來るが、鐵道の話を始めて聞く位であるから、日本人には迚も出來さうもない。そこでモレロに頼んで一千人許りの西洋人を雇入れた。此は皆鐵道に使つたのではないが鐵道の方が多數を占めて居た。其から廣軌狹軌問題も起つたが、印度でも狹軌だし、歐洲にも狹軌の處があり、且つ金が少くて濟むので狹軌にした。

偖愈々敷設すると云ふ段になつたら、實に激烈なる反對が起つた。先第一が鎖國攘夷主義よりも來、陸海軍からも來た。

其は鐵道や電信の樣な異人の物を持つて來ると日本魂が廢ると云ふのであつた。そこで電信線を架けると直に切つて終ふ。熊本の神風連の如きは電信線の下を通る時は扇子を眉間に當てヽ「拂ひ玉へ清め玉へ」をやつたと云ふのである。加之、大名、公卿坊主、國學者、漢學者何れも大反對であつたのみならず政府部內殊に陸海軍、兵部省でも強く反對したのであるから可笑しい。其理由は鐵道を架けると其によつて外國の兵が攻め寄せると云ふのであつた。

其から鐵道敷設の話は東京から神戸まで引くとして三百萬ポンド要る事になつて、先其內百萬ポンドの借金を、支那に居た英國の代理公使ネルソンレイに由つて借りんとした。

所が同氏は外務卿の印や大政官の印が要るのと云つて、此方では分らぬが、其で英國で公債を募集することになつた。そこで此事が顯はれると、大隈は賣國奴だ斬つて終へと頻りに攻撃を浴せかけられ、我輩も默つて居られず英公使パークスから忠告されて之を英國の法廷に對し裁判を請求して勝訴になつた。其時前島密と上野景範が出掛けて行つたが、此二人が序でに郵便と貯金制度を習ひ印刷機械や、紙幣製造の機械なども買つて歸つて來たのである。(鐵道青年)

誇るべき物を有せぬ國

早稻田大學教授　安部磯雄

先づ物質的に考へて我國には何の誇るべきものがあるでしやうか。貧弱なる我國は殆んど凡ての點に於て立後れて居るではありませんか。或人は陸海軍の設備が他の一等國に比して遜色なきことを言ふかも知れません。僕も實は度々陸海軍だけは誇るべきものゝ一ならんと考へたのであります。然し或政治家の申した通り、日本國家を家屋に比すれば陸海軍は差當り雨露を拒ぐ所の屋根であります。屋根だけは兎も角出來たが、内部の設備は甚だ不完全で疊もなければ障子もないといふ有樣であるから、いくら屋根がよく出來て居ても、斯る家屋を外國人の前で誇る譯には行きません。

一たび陸海軍を別にして考へれば、工業、農業、商業等に於ては尙更誇るべき所のものがない樣です發明などの方面に於ては多少世界に貢獻したこともあるでしやうが、取立てゝ言ふ程のことはありません。

思想上に就て言ふも我國には世界の舞臺に押し出すべき程のものがありません。隨分斷片的なる哲學思想に面白いものもある樣ですが、これは多く印度、支那等より得たるもので我國獨得のものとして輸出すべき大思想があるでしやうか。（新公論）

君子國の試驗には五十點も怪しい

農學博士法學博士　新渡戸稲造

日本は君子國だと云はれて居るが、果して君子國か否か、支那朝鮮に比したら或は君子國ならんも、歐米諸國に比して誇るに足るかどうか。公平なる審判官があつて、世界各國人につき、比較試驗の上、標點したら、日本は君子國として及第するだらうか、僕は遺憾ながら覺束ないと思ふ。實業、文學、道德、武力と較べて來て何一つ及第點が得られやう。唯歷史の古いと云ふ一點だけは滿點かもしれぬが、其他は三四十點位、五十點は得られまいと思ふ。

春秋兩度に催さるゝ觀櫻觀菊の御宴には、僕も離宮へ御招きに預るが、其度毎に耻しくて肩身の狹い思をする。御宴に列する人々は從何位以上、何爵など、皇室の藩屛又は我國一流の紳士であるが、愈々食堂が開かれると、我先と、人を押のけ、掻きのけ、壜を小脇に挾み、片手にフオークを提げて、食物に向ひ突貫する、僕はこの有樣を見て耻しくて堪らぬ。西洋人と同行するごとに、この修羅場を見せたくないと思ひ、まあ〳〵少しお待ちなさいと、食堂へ行くのを控へさせる。殊に氣の毒なるは夫人連である。大の男が盛裝したる夫人を押のけ刎れのけ、兩臂でかき分けつゝ食物に近づく樣は宛然餓鬼道に陷ちた人の如く近寄ることも出來ぬ。（實業の日本）

俸給生活と獨立生活

東京市長　尾崎行雄

現代に於て中學敎育を受けたものは、職務そのものよりも寧ろ收入の多きを望む輩がありながら、誰も此俸給生活のみを喜んで、獨立營業に向ふ者が少いのは其志の僅小なることが看透されて實に憐むべきものである。國家經濟の上から決して俸給生活をなす者の不必要を認めないが、我輩はもう少し獨立心を發揮し獨立營業によつて生活する者の增加する事を望んで止まざるものである。

眞に大望を懷いて居るものは、俸給生活を爲し、他人に驅使せられて一生を終るよりは寧ろ獨立營業によりて、際限なく發達すべき方面に向はねばならぬ。俸給生活を望むものは假令臺閣に立つて最高の地位を得るとしても、ソレは僅かなる少數者に限られて居る。大部分は他に驅使せられ、年後となつて碌々一生を終るに過ぎぬではないか。收入の點よ

り見れば以て一世の富豪となるに足らず。權勢の點より見れば少數の最高者を除くの外は、一生他人に驅使せられ碌々身を終るの運命を免れない。故に俸給生活を希望する者は極めて少くない筈だのに、事實は全く此に反し、今日中學以上の教育を受けたものは、大底皆之を希望する樣である。帝國大學は日本の最高學府であるが、四十一年九月末の調査によると、創立以來八千五百一人の卒業生中、死亡者と不詳者とを除き、七千三百人の中、六千九十三人は俸給生活をなし、獨立生活をなすものは僅に八百八十八人に過ぎない。實に俸給生活全盛の世の中だ。(都市教育)

福と金

文學博士　三宅雄二郎

福と言へば金持を意味するやうになつてゐるが、七福神の中で金を持つて居るのは先づ大黑である。他は有るか無いか分らぬ。然し何れも福々しい相をしてゐる。或は鯛を釣つたり、或は鹿と遊んだりしてゐるのであるが、それでも愉快さうであるのは、福が必ずしも金で得られぬとが分る。

別段金が無くても福相をしてゐるのがあり、金があつても貧乏神のやうに見ゆるのがある。福を以て金持の事とするのは少しく見當が違つてゐる。福の神と貧乏神とあつて別段に金持の神はない。けれども之れ偶然のやうで偶然でない、金持の神があつて之に祈つて金が出來たとてそれだけで、何といふことはない。金は福を得るの手段であつて、金其物は福でない。

希臘の話が殘つてゐる、手の觸るゝ所悉く黃金となるやうにと祈り、願が叶つて手の觸るゝ所悉く黃金になつたが、食物まで黃金となつて如何ともする事が出來ず、祈り直したといふ事である。

流石七福神は面白い所がある。金があつても無くつても福々しい愉快さうな所がある。金は福を得るに有效なものであるに相違ないが、用ゐ方で福ともなり禍ともなる。金の作り方も六ケ敷いが遣ひ方も六ケ敷い。(實業の世界)

予の父親

男爵　澁澤榮一

予の父親は實に義理難い一徹の性質で、一旦斯うと信じたなら如何なる事があつても、後へ退くといふ事はなかつたのである。予が一旦やりかけた事は中途で廢すものでないと、常に思つてゐるのは父親の感化の力が與つて大なるものであると思ふ。

嘗て余が德川民部大夫に從つて歐羅巴から歸朝して間もなかつた時、一戶を借りて友人と一緒に住んでゐた。當時恰も世上大變動の頂點で、諸大名の在府者或は旗本などが、家財道具を塞値同樣に賣り飛ばしてゐたが、予と友人は蒲團も持たぬ新世帶なので、或旗本の拂物であつた絹布の夜具蒲團を木綿物でも買へない程の安價で買ひ取つて使用してゐた。ところが偶々國元より父が上京して、夜分になつて件の夜具を出した處、父が「私は百姓だ、百姓は綿もので澤山だ、絹布類等は分に過ぎるから着ない」といふのである、そこで「いやそれは實はこれ〳〵で安く買つた品だから」と申しても「私は綿物でなければ寢ない」といつて、如何に其理由を說いても聽き入れず、仕方がないからとう〳〵近所から損料蒲團の綿物を借りて來た事があつた位である。(龍門雜誌)

範とすべき歐洲の美風

内務省土木局長
法學博士　水野錬太郎

近來何事でも、都會でなければ成し得られないと云ふやうな、卽ち都市膨脹の傾向があるが、これは農村の衰微に伴ふ憂ふべき現象で、歐洲でも、心ある人々は、大に此事を憂慮して一面には都市に於ける地方人の誘惑を拒ぎ一面には農村生活の趣味と便益を增す事に力を注いで居る、青年團を組織し倶樂部や劇場などを起して居る。彼のグラッドストンの如きは、大宰相の榮職を退いた後には鄕里に歸つて鄕里のために大に力を盡した。又前の英國首相バーナマンの如きも鄕里の近傍に歸つて公共事業に努力したのである、又彼の殖民大臣として、帝國

主義の主唱者として有名なるチャンバレーンはバーミンガムの市長として、大に市政のために盡してる。これを農民の側から云つて著しい一例を擧ぐれば

〈米國で麥を盛に栽培するやうになつたため歐洲諸國に大影響を及ぼしたが、英國の農民は麥作を止めて牧畜に轉業し、獨逸の農家は關税を改正して之を救濟せんことを國會に請願した、が丁抹の農民は其樣な事をせず、只に麥作の改良に従事して米國を凌駕する方法を研究したのである。之を以ても如何に丁抹の農民が自活力のあるかゞ分るのである。

（新民）

宗教界

自ら門出を餞す

護教主筆　高木壬太郎

抑も『護教』は日本メソヂスト教會の機關として發行せらるゝことなれば日本メソヂスト教會の利益を保護し發達せんために努力すべきは申す迄もなきことにして、我々は及ばず乍ら當局者の驥尾に附して微力を盡さんことを期すべし。

去り乍ら我々の考ふる所に依れば、メソヂスト教會の利益を保護し發達するの道はメソヂスト教會よりも更に大切なるものあるを知りて、先づ之が利益を謀るに在り。メソヂスト教會よりも更に大切なるものとは申す迄もなく神の國にして我々がクリスチャンとして有する第一の使命は此國に神の國を建設せんとするに在り、メソヂスト教會の存在するも之がためにして、我々が特にメソヂスト教會の利益を保護し發達せんとするも、畢竟之を以て此大目的を果す最良の手段なりと信ずるがために外ならず。

去れば我々は徒にメソヂスト教會といふ一宗派のみに執着して、眼を大局に着くることを忘るべからず。昔徳川家康將さに死せんとするや、外樣の諸侯を幕府に召して之に告げて「我命旦夕に迫ると雖も、將軍（秀忠）かくておはさば天下の事心やすし。されども若し將軍の政道其理に適はず、億兆の民困難するならんには、誰にても其任に代はらるべし。天下は一人の天下にあらず天下の天下なりと聞けば、假令他人天下の政務を取りたりとも、四海安穩にして萬民其仁恩を蒙らば、是れ素より家康が本意にして聊か憾み思ふことなし」と言へり。家康にして若し初めより獨り私門の繁榮のみを營むに汲々たらば、天下の人心何ぞ之に歸嚮せんや。然るに彼は私門の經營を棄てゝ、先づ心を海内の人民に注ぎたり是れ彼が天下を得たる秘訣にして、我々の思ふ所に依れば此理人間一切の事に通ずべし。

基督が『生命を全うせんとする者は之を失ひ、我がために其生命を失ふ者は之を得べければ也』と言ひ給へるは、我々の靈性を救ふ上に就て云へることなれ共其理は相同じ。故にもし我々にして徒に自己の宗派にのみ執着し、宗派以外宗派よりも更に大切なる神の國あるを……忘るゝことあれば、我々は其自ら保護し發達せんとする宗派の存在をも危くすべし。去れば我々は先づ陜隘なる宗派心を棄てゝ神の國の利益を保護し發達せんことに眼を注ぐべし。是れ所謂メソヂズムにして、メソヂズムを保護し發達するの道又他に之れあるべからず。ジョン、ウエスレーが他人の説に對して極めて寛容にして、宗派の異同を問はず凡て神を愛する人々と共に神の國の利益を謀りたるは實に是れが爲にして、我々の先づ自ら期せんとする所も亦之に外ならず（護教）

新年の希望

日本教會牧師　松村介石

海外に於ける吾人の希望に二つあり。一は支那の革命に際し、之が宗教教育の

大任に當らんと欲するもの即ち是也。

我黨の士李原本曰く、我黨の主張ならば、屹度清國を風化するに足る。支那の宗教教育を支配するものは、必ずや我黨たらざるべからずと。一は歐米人に我黨の主張を傳へんこと即ち是也。村井兄、過日「腹」と題する大演說を試み、大に吾人の驚賛を博せしが、更に英語を以て之を洋人に試みしに何れも能くその意を了し、是れ實に東洋獨特の悟道、歐米の大に學ばんと欲するもの、去て歐米に趣いて、其所謂養眞の訣を傳ふべし。必ずや多くの信者を起さんと曰ひしといふ。支那の傳道、歐米の傳道、是れ今年に行ふ能はざれば、更に來年に行ふべきもの若し來年に行ふ能はずんば更に來々年、若しくは十年、二十年に行ふべきものとなす。

海內に於て爲すべきもの益々多し。一々數へ盡す能はざらんとす。日本敎會を「道會」と改稱して其下に色々なる精神的並に社會的事業を爲すべきこと是れその一なり。內規律を設けて之を統一し、外、財團法人となして廣く同志者を天下に募るべきこと、是れその二也。宗敎的方面に於ては禮樂を定め、經典の如きものを編纂し、上中下の三段に分ち、我黨主張の宣傳を圖り、社會的方面に於ては「道の會」の如きものを發展せしめ、更に色々なる慈善事業に着手すべきこと、是れその三也。京阪神は勿論の事、地方各地に在て我黨の同志を共に、其地々々に我黨の旗幟を飜へし、着々我國精神界の征服を開始すると、是れ其四也。然り而して第五には財團法人と共に各部々々に適材を置き、大藏、文部、敎育、內務等の任務に當らしめ、一大政府の如き大組織を起すこと卽ち是なりとす。（道）

精神界の革命を想ふ

基督敎世界主筆　加藤直士

今や我日本の精神界は自己の權威を蔑視して自ら物質界の奴隷となつたのである。心靈は脆くも物質の囚ふる所となつた。日本人は今や專ら器械的法則を以て精神界の事物を律し、物質的原則を當篏め心靈的活動を支配せんとしてをる。科學偏重主義の敎育は人をして自然界の法則以外に何等のより高き法則の存在を否認せしめ、形式主義の諸般の制度は設備方法を以て人生の能事足れりとするの謬見を抱かしめ、傳說主義の宗敎は敎理と儀式の桎梏を以て人靈を壓迫し、偏狹なる國家主義は鐵鎖の如く個人の人格を束縛し、以て社會一般の事形式益々備りて生命益々乏しく、設備愈々整うて內容愈空しきの奇觀を呈するに至つた。之を物に譬ふれば恰も溝渠を穿つて水源を塞ぐが如く、機關を据ゑ附けて動力を絕つが如くである。如何で生命の橫溢を見ることが出來やう。

之を救ふの道は到底姑息の策を容ない。須らく根本に溯らざるを得ぬ。卽ち個人をして自己の心靈の力を覺らしめ、國民各自をして人格の價値を曉らしめ、一個の人靈には全世界に易へ難き尊嚴あるのみならず、又實に全世界を動かすの力ある事を信ぜしめ、形式以外方法以外制度以外に凡て是等の者を運用利導する活ける生命の力が現存するの大事實に想ひ到らしむる事である。

我國第二の維新は政治上のそれに非ずして精神上のそれである。今や其精神的革命の時期は終に到來した。此革命にして首尾好く成功するに非ざれば、日本の前途は斷じて新生面を開く事が出來ぬ。此意味に於て日本の今日は支那の今日よりも大なる危機に際してをる。

羅馬教會

早稻田大學教授 文學士 内ケ崎作三郎

一

羅馬教會は何んと云つても基督教の御本家である。其の秩序あり、組織的なる點には新教は勿論、世界の如何なる大宗教でも及ぶことが出來ない。印度教、佛教、マホメット教、儒教、神道、皆夫れ夫れ長所があらう。併しながら其の組織と秩序の完全なることに於てはトテモ羅馬教會に及ばぬ。殊に羅馬教會中の義勇兵とも云ふべきゼエスイットの團體に至りては其の組織の完全なると其の訓練の行屆けることを以て世界の法制家をすら驚嘆せしめて居る。

ゼエスイットの規律の厳明なること軍隊も之に及ばぬ程であることに就き、一例を申せば、今年の春、匈牙利の學者エミール、ライヒが死んだが、此の人の著書の中に

「私は少年の時ゼエスイツトの學校に學んだが、或日のこと、授業時間に小使が一封の手紙を持ち來りて教師に渡した。スルト教師は直ぐ開封して一讀し生徒に向て本部より南米に行けとの命令が下つたから教授は之れで止めると告げ、即日旅装を調へて出立した云々。」

と書いてある。ゼエスイツトが目的の爲に手段を擇ばぬのは惡いが、其の組織と訓練には敬服せざるを得ぬ。

第二の長所は建築の雄大なることで、獨逸ケルンの大寺院の如き、巴里のノートルダムの大寺院の如き、或は伊太利、ミランの大寺院、ベニスのサンマータ大寺院、羅馬のセント、ピーター大寺院等の如き孰れも世界の大建築である。殊に、ミラン、ベニス、羅馬の大寺院の如きは、自から目撃するにあらざれば信ずることの出來ない程に大きい。ミランの大寺院の如き悉く大理石を以て成立し、其の大屋根を支へる爲めの五十二本の大黒柱は、悉く繼目なしの大理石の柱で、其の柱脚の圍りは各々十六歩づゝある。此の寺院の中へ這入ると石柱の林中へ入りし感がある、屋根の上には聖徒や有名なる宗教家の石像が二千安置されてある。羅馬のセント、ピーター大寺院は其の建築に一億圓を要したと云ふが、金色燦爛として實に立派だ、殊に此の寺院は名畫に富み、ラファエルの彫刻なぞもある。又音樂も頗ぶる莊重なもので其の頌榮歌の如きはグレゴリーの大王が定めたグレゴリヤン調を今も尚ほ傳へて居て、一點輕浮の趣なく、聞くものをして坐に敬虔の念に打たれしむるものがある。

又寺院は凡て十字架の形に出來て居て、十字架の頭の所が祭壇、左右が翼堂、下の方は信者の集まる所になつて居る、儀式も建築も皆宗教的シンボリズムになつて居るから面白い。由來ラテン民族は美術と音樂を好むこと夥しい、ソレデ羅馬教會は、著しく人間の美的要求に應ずる樣發達して居る。

第三羅馬教會は一寸考へれば貴族的の樣だが、一面は頗ぶる平民的である。新教は要するに中流社會の運動で、中流以下の社會を目がけたものは獨逸のモラビヤ派、及英のメソヂスト救世軍のみであるが、モラビヤ派や救世軍等の下層社會に於ける勢力はトテモまだ羅馬教會の勢力には及ばぬ。羅馬教會には懺悔の制度がある。之れには弊害も多いが、本來の目的は立派なもので、今でも此の制度は無教育なものを導くに非常な力となつて居る。例へば愛蘭が歐洲で一番私生兒の少ない所であると云ふのは、全く羅馬教の僧侶が懺悔の制度によりて下層社會の

道徳にまで、干渉して居るからである。ソレがなかつたら愛蘭の如きは歐洲で・一番私生兒が多かるべき筈の國柄である

羅馬教會へ行て見て居ると各種の勞働者が來る。下女が買物に出た序手に籠をさげたまゝ寄つて祈つて行く。縱ひ瞬間でも大きな堂へ這入り、美しき畫像を仰ぎながら祈つて出て行く。此の間に言ひ得られぬ感に打たれるであらうではないか。

羅馬教會にも以上の如き長所あればこそ、文學にはダンテ、畫にはラフアエル、彫刻にはアンゼエロウ、又說教家としてはサブナローラーを出したものであると考へる。（道）

神社論

立教大學校長
哲學博士　元田作之進

日本に於ける神社とは日本獨特の制度である、恐らく外國にも之れに類似のものがないと思はる。猶太のシネゴーグとも違へば基督教國のチヤーチとも異つて居る。佛教の寺院とも全然別物であつて神道の教會とも同一でない。神社に於ては說教もなければ、葬式もない。さすれば偶像の禮拜堂であるかと云へば、さうとも云へない。我國の神社は我國に限つて見らるゝ建物であつて、單言すれば祖先崇拜の場所と云ふより外に說明の仕方があるまいと思ふ。

之を政府の人に聞くと、國家の制度としての神社は決して宗教上の機關でないと明言するのみならず、世人が動もすれば宗教上の禮拜の場所と考ふることを遺憾として居る。此誤解がある爲めであらうか、去る明治三十三年に內務省では神社局と宗教局とを分離して事務を取扱ふことになつた。神社が宗教に關係のないものならば無論かくあるべき筈である。以前內務省が神社の事も宗教の事も一の社寺局にて取扱ひ、神社と寺院と共通の達や布告等を發したことが間違ひで、世人の誤解はこんなことから起つて來るのである。

神道に於ける禮拜の場所は教會と稱して居る。神道教會は神社と同じ樣な建物を建て又設備をなすことを禁ぜられて居る。神道の教師は宗教上の役目であるが、神社の神職は準官吏である。故に其任免の法規も全く異つて居る。又神道にありては他の宗教に於けるが如く、其歸依する者を信徒と言ふが、神道に至つては近頃之を崇敬者といつて居る。其は以前信徒と云つた時代もあるが、混同する恐れがあるから其言葉を改めたと云ふ事である。

國家の制度としては神社は神道に關係はないが、神道は神社を何と見て居る。先づ神道に十三教派ある此等は神社の祭神を自己の神として拜して居る。神社の所謂神と云ふ意味と神道の所謂神と云ふ意味とは異つて居るが、兎に角同じものである。國家の上より見れば、神社の神を以て神道家が之を神道的の意味を以て拜しやうと佛教家が之を佛として崇めようと勝手に任するであらう。であるから神道がなくなつても、佛教がなくなつても、神社は何等の影響も受けない。祖先崇拜の場所としてチヤンと存在してあるが、之に反して神社がなくなれば神道は其本尊を失ふ譯である。

神社の祭神は宗教上の神にあらずして歷史上の人である。故に神社の祭禮は宗教上の禮拜にあらずして、過去の人に對して敬意を表する形式である。死に事ふること主に事ふるが如しで、現在は過去の賜であるゆゑに、過去に於て盡した人人を紀念し敬意を拂ふことは、現在の人人の義務である。此精神よりして家に神棚を造つてあるものとすれば、信者となると同時に之を取毀つなどゝは以ての外の事である。神道信者であつた當時に神棚に對して行つた其事が惡いとすれば、其行ひ方が惡いのであつて神棚に罪はない。之を保存して基督教的に祖先崇敬の

實を擧げたい人には至極麗はしい事ではあるまいか。(開拓者)

宗教利用の計畫

▲二●●●●●宮宗の放棄　平田前内相時代に於ては地方自治に資せんが爲め、專ら報德教を標傍し之を宣傳せんが爲め、特に講談師如き者迄も地方を巡回せしめ、飽まで報德教を地方自治に利用せんとせしがなきに至れり、例へば曩に發表せられし桂内閣の瓦解と共に、全く之を顧みる者通俗教育會の推選せる圖書の如き、全く同教的意味を帶ぶる者之れ無きに至れる如き奇現象を呈せり。

▲三●●●●●宗教の利用　民間に於ては、既に二宮宗に愛憎を盡しをる際、恰も内閣の更迭ありし爲め、二宮宗は全く地方自治と沒交涉となり了れり、新内務省に於ては何がな之に代る者を發見せざるべからずと、種々物色せし結果、床次々官の眼に映せるものは佛教、耶蘇教及び神道の各宗派なり、現在宗教は殆んど何等の勢力なきが如きも、地方人民の頭腦には尙ほ牢乎たる因習的宗教信仰を有し、都會の中流社會には、新來の耶蘇教亦侮るべからざる勢力あるを以て、之を民政に利用するは頗る賢き方法なるのみか、一面是等宗教家が偏に官邊の利用を喜ぶの風あるを以て、二宮宗に代るに之を以てせんとするに至れり。

▲山●●●●●縣公を口說く　されど之を利用せんには、神佛耶三教を同一に待遇せざるべからず。然かるに宮内省及び一部の元老側には、兎角耶蘇教を喜ばざる者多く、勢ひ反對の聲を聞かざるを得ざるを以て先づ一部元老をして之に贊同せしむるの必要上、舊臘卅日床次次官は山縣元帥を訪ひ、宗教の性質上、耶蘇教の決して毛嫌するに及ばざる事を諄々として說破したり。老公も初は之を喜ばざるの風ありしも、床次氏に說かれ漸く納得せしを以て、氏は其以上に顧慮する所なしとて、直ちに之を進捗せしめん爲め、盛に活動を繼續することとなれり。

▲黑●●●●●幕の人物　床次氏の此計畫に直接參加しつゝあるは、佛教學者側に姉崎正治氏、各宗派側には顯本法華宗管長本多日生氏、耶蘇教側には植村正久氏等あり、而して留岡幸助氏が次官の黑幕なるは勿論にして、神道側に於ては未だ聞く所なきも、具體的の成案を見るに至らば、是亦相當の代表者を選出すべき筈なり。

▲宗●●●●●教家優待は假面　内務省今回の計畫が、全く秘密の裡に行はれつゝあるは若し是にして漏洩せば三教の各派より種々なる干涉賣込等を試むる者續出し、内務省を忙殺するに至るべきと、既往の實例に徵して明かなるを以て、毫も他に知らしめざるの方針を採れるなり。之を要するに内務省は宗教家優待と云へる美名を以て、地方に根底を有する成形宗教の勢力を利用し、何等かの活動を試みんとするに過ぎず、發表後果して如何の影響を與べきやは刮目して見るに値ひすべし

右萬朝の報道する處事實の眞否は記者の知る所にあらず(一月十二日)

信仰の友

信仰生活の充實

新年號の福音新報は「如何にして信仰生活を充實せしむべきか」に就て諸氏の意見を載せて居る

自習を努めよ

姫路教會牧師　毛利官治

如何にして信仰生活を充實せしむべきか。是は其人と境遇とによりて多少其趣きを異にすべきは勿論の事に候へ共特に頃日の急務と存居候ものの一は、各自が一層基督教の教義を會得して、何れも基督教者としての一見識を有し、一方には之によりて其逢着せる難問を解決し、或は諸種の誘惑にも打勝ち、他方には更に進んで生活の新生面を開き得る丈の力を養ひ置く樣に致度ものに候。之が爲めには聖書の習讀最要と存候。近來學校教育に教師の講演を主として教科書を用ゐざる風有之候。此法も長所を有し候へども自習の實力を練磨する點に於て不利不尠候。今日基督者の修養にも餘りに說教講演のみに依るの風多きは、之と同樣の弊なきにやと存候。今一層各自銘々が聖書の研鑚に務め、其意義を探り其眞味を嘗めて獨特の信念を養成し得る樣に致度ものと存候。

信仰と日常生活

東京遞信管理局長　棟居喜九馬

個人的に信仰生活を充實せしむるには矢張祈をするよりほかにはない。又聖書を研究し、神に願つて力を受け強くなつてゆくことが肝要であると思ふ。家庭の内に信仰生活を充實せしむるには家庭の禮拜がなくてはならぬ。

自分の内では每朝六時半から家族の集りをして居る。老人は遲いので別としてある。老人は老人で「聖書の友」によつて自分で聖書も讀み祈もして隨意にやつて居る。其方がよいやうである。それで每朝六時半からの集には私と家内と十七になる子供と三人が集てやる。聖書のうちの解らぬ處は私が解き明しをする。聖書は始めから順に讀んで居る。今度は日本基督教會の家庭暦が出來て居るから或はそれに依つてやることになるかも知れぬ。而し此はまた未定で、どう云ふ風にやらうかと考へて居る。家庭の禮拜については色々とその方法を考へて見たが、どうも朝起きるといきなりやるが一番よい。子供は學校があるので朝はきまつた時に起きればならぬ。起きてまだ何事にも手を着けぬ前に禮拜をするとまことに氣持がよい。一日のことにもすべて順序が立つてゆくのである。時間は二十分位で濟む。六時半がくれば正確に始じめることにしてあつて、子供が遲いときには自分が起しに行くこともあるし、又自分が遲れることもある。順序は讚美歌をうたひ、聖書を輪讀し、司會者が祈を捧げると云ふ單純なものである。司會者は順番である。子供は思想が單純なる故祈が單調になり易い傾があるので先日も子供に注意してなるべく其日に讀んだ聖書のことを祈りの中に入れるやうにと注意したことであつた。さうすると聖書を讀む時に氣を附けて讀むやうになつてまことによい。

私の處の家庭の禮拜は此夏からはじめたのである。それ迄は銘々別々に聖書を讀み祈をして居つたが植村先生が朝鮮から歸つて來て家庭の禮拜のことを大にすゝめられた。それに勵まされてはじめたのであるが非常に好い成績である。前にも云つたやうに老人はひとりで聖書の友によつてやつて居る。そして解らん處は尋ねられる。また女中等の爲に特別の集を開くこともある。昨年はみんなを集めて歳末の感謝の集りをしたことであつた今年も昨夕家庭のクリスマスを祝ふた。

一片の習慣たらしむる勿れ

神學博士　井深梶之助

信仰を深くするには實生活に觸れるこ

とが必要である。余は隱遁者ではないが平生の仕事が學校のうちのことであるから、世間とは風の異つたところがある。知らず識らず實世界と離れ易い傾きがある。是れは一方から云へば誘惑を免れるかも知れぬが、活ける信仰を有たないやうになりはすまいか。それで余は學校で講義するのみならず。機會があれば地方に出かけて實際の傳道をすることを心懸けて居る。之によつて實際の方面に觸れて、自身の信仰にも得るところが多い。且つ良い書物を讀んで、思想を練る必要がある。事務に追はれて思ふやうに讀書することの出來ぬのは實に不利益なことである。

訓練を要す

家庭學校長　留岡幸助

如何にして信仰を充實せしむるかと云ふは、單純な問題である。然し努力を要する問題である。其の方法は聖書を讀み、祈りをするに如くはない、社會事業をするにしても基督の人格ほど鼓舞激勵せられるものはない。故に余の讀む書物のうちで重なるものは、基督傳に關係したものである。今日の基督者には何うも訓練が足りない。家庭に於ても家憲を作つて、もつと訓練することが肝要である。余の經營して居る家庭學校では、敎育を肉體から精神に及ぼす方針であるから、先づ毎朝先生も生徒も皆な水浴をすることになつて居る。極寒の間は隨分苦しいが然し之が爲めに子供の體質がすつかり變つて了ふ。肉體の訓練が出來ると、精神も自ら引き締つて來る。信仰生活にも訓練が大切であると思ふ。

官吏生活と信仰

鐵道院技師　長尾半平

官吏と信仰とは相容れないやうに考へたり、云つたりする人があるが、自分は然う云ふ思ひをしたことがない。其の相容れぬと考へることは、少しも僞らざる生活をなすことが出來なからうとの杞憂に外ならないやうである。然う云ふ問題は基督者たる官吏の集會などで屢ば話されることで、中には僞りは方便として避くべからざるものと思つて居るものもある。此う云ふ人は基督者として官吏の生活を送ることは不可能であると見て居るのである。然し自分は之に向つて、然んな筈はない、一つ遣つて見せうと云つて、今日まで遣つて來たのであるが、何うやら遣れさうに見える。

信仰の修養は神に近く居ることを心懸け、事々物々に當つて之を忘れぬことが大切と思ふ。色々の事を判斷することに神の好みたまふところと考へるものを撰むべきである。神は近く居ることによつて、靈的生命が死なずに活動する。

余は曾て神は遠いところにあつた嚴重な賞罰をつかさどると云ふ觀念を有つて居たが、基督敎によつて神が常に其子を愛する神であることを知つて、時としては子供が親の前に我儘をしても差閊へのないやうに、基督者の生涯は神の前に畏縮して居るものでなく、樂しく愉快に暮して往くべきものと思ふ。以前は己を責めて、難行苦行をもせねばならぬやうに考へたが、今は神の前に暢びりして無邪氣に生活し得るやうになつた。只だ自分の過ちばかりを責めて居るよりは此の方

が順當に靈的進玉をなすことが出來はすまいか。子供が叱られても親の許に居るのを喜ぶやうになりたい。

尙此の他信仰上の問題につき論議せられたる諸名家の極めて淸新にして有益なる記事が澤山あるけれども、紙面の都合上止むを得ず之を次號に廻すことゝした。

婦人問題

日本の婦人界は果して優れりや

女子英學塾教授　河井道子

今日東洋に於て最も注目せらるゝのは日本である。日本のする事は注目せられて居る丈け確かに影響が大きい。もし日本の婦人が起てば、必ず支那、朝鮮、印度の婦人は之れに注目して、倣はんことを希望して居ると世界は云ふてをる。然るに我が婦人界には、まだ〳〵他國の手本となる程の大きな精神もない、立派な働らきをもして居らぬ。何か足りないものがある。例へば親の云ふ事に叛く事はよくないと云ふ事は知つて居る。然し正義を立て通す爲めには、親の命令にさへも叛いて勝利を得る事が、神が人間に命じ給ふ所であると云ふ事は、まだ〳〵實際の塲合行はれて居らぬ。例へば公娼制度の如きも、もし正義の爲めには親にも屈しないといふ念があれば、自然とこの忌はしき制度は亡くなつて行くであらう日本の德も捨て難い所があるが、それにのみ安んじて居る事は、獨り天狗になる恐れがある。まだ〳〵、日本の凡の事は世界に比すると幼稚であつて、進歩すべき餘地は充分にある。日本程朝から晩迄女子に向つて良妻賢母たれと叫んで居る國はない。それで世界に勝つて良妻賢母を出して居るか。否日本程離婚の多い國はない。この忌はしい離婚は下樣に多いかといふに、敎育を受けた立派な社會にも隨分多い。これは男子も社會も惡いがまたこれは確かに良妻賢母の少い證據である。良妻賢母は家政學によりてのみは作れぬ、基督敎によつて高き精神敎育が行はれなければならぬと思ふ。

(明治の女子)

女天下の説

萬朝報社長　黑岩周六

……社會の裡面に於て即ち眞實の實際に於て男と女と何方が餘計に實社會を支配して居るかと云へば其は女である。日本の樣な明々白々たる男尊女卑の社會に於てすらも、社會を餘計に動かすは女である。決して男ではない。勿論、社會の事物は十中の八九まで男に經營せられ、男に改廢せられ男に進歩せしめられて居るやうであるけれども、其根本に於て女が男を動かすことが多きや、將た男が女を動かすことが多きやを見れば、女が男を動かすことが多い、女は男に動かされるのが少なくして男を動かすことが多く男は女を動かすことが少なくしに女に動かされることが多い。論より證據、其第一に爭ふべからざる點は、凡て人間(少なくとも今の日本人)は生れると直に母の膝に抱かれ、母の乳を飮んで母の世話を受け、母の慈愛に育てられる。即ち人の氣質は、其天性以外は母の手で大部分を作られるのである。此點に於て女が社會の根本を支配して居るので即ち社會の一切を制禦して居るといふべきである。生物學の六ケしい理論は何れとしても此

點だけに於ても社會は婦人一元ではないか。たしかに女天下ではないか、又假に成長した後と雖も男が女の厄介を受けぬ時間とては甚だ少ない。着物の世話、食物の獻立、一家の切盛、即ち人性の大事たる衣食住の三つに於て、總て其大部分が女の手になつて居るではないか。

（其他種々女子が男子を支配するとの多き事實を擧げ、其偉大なる力を稱揚して扨曰く）

諸女の此偉大なる力は何處より來るか これが婦人たるものゝ大に考ふべき點、大に自覺すべき點であるとなし、而して之は、昔から能く言ふ

「柔能く剛を制す」

の一言に盡きて居るとて、

女は決して強いから男子を支配するのではない。強ければ即ち女の本領を失ふて男子になる。男子的になれば男子と爭ふことは出來る、男子を感化することは出來ぬ。男子と競爭することは出來る、男子を支配することは出來ぬ。男子と喧嘩することは出來る、男子を制服することは出來ぬ。女の力は其弱さに在る。弱いものは憐まれる。男子の女を憐むと云ふ其心が即ち男子自ら己れを女よりも更に弱からしむる軟化素となるのである。自分の憐むと云ふ心の爲めに自分から感化されて行くのである。併し憐みの心のみでは無い。婦人に對する尊敬も矢張り同じ事である。其尊敬は何處から來る。他無し女の氣永く、根氣よく、我慢強く、いつ迄も從順にして貞節な所に在る。知らず〴〵其の貞節に感心するのである。世間の婦人達の中には男に尊敬せられるのは女の學問に在るとか才藝に在るとか男まさりの氣性にあるとか信じて居る方も多い樣に見受けられる。成るほど女の學問も才藝も氣性も必要ではあらう。之が無ければ尊敬を受けずに却て侮られる元と爲らぬとも限らぬ。

男の尊敬を受くる種は決して是れで無い。永き從順を續け、貞淑にして不平も苦情も現はれざる其辛抱である。孰れの男子とても斯かる女性的性質に於て、女に敵し得る筈は無い。私しは從順の德に富み永く貞淑の變ぜざる婦人を見ると、迚もあの樣な眞似は出來ぬと只管ら感に打たれ、我れ知らず尊敬の念が湧くのである。是れは決して私し一個の實驗に止まらぬ、廣く男の心に斯うであると斷言する。男は決して長所に於て自分と競ふものを尊敬せぬ。自分の短所を長所として備へて居る人に感心する。即ち自分の及ばぬ所に尊敬を生ずるのである。

△試みに婦人の型を破れ

早稲田大學講師　島村抱月

一體男と女とは眞實の意味に於て、如何云ふ社會的地位の異動があるかと問ひ、今日の婦人の狀態なりとして述べて曰く、

彼等は何百年來一種の型に入れて、育て上げられた、云はゞ人工的に誇張された婦人型といふものになつて作り上げられて居る。最も多少の例外はあるとしても大體に於て、其心理狀態から見ても、其生理狀態から見ても、女らしいと云ふ樣な一つの觀念を、人爲的に誇張して、それにあてはめて幾百年來育て上げられて來た。從つて一寸見るとこれがやがて女子の天然自然の性質であつて、あんな風に弱い柔しい小さい細かいと云ふ樣な方面に進むのが造物者の主意であつたかの如く見える勿論其中には柔しいとか、細かいとか云ふ樣に、特性の天然の傾向があるには相違なからうが、誇張とは其意味で、天然以外に大分極端に造り上げられて居る點がある。此點より云へば、日本の婦人等は、世界に於て最もよい標本であつて、自然を通り過して大分向ふの方に持つて行かれて居た。だから自然の女といふよりは寧ろ人工の女といふ感じが餘程多くあらはれて居る。……それに比ぶると大體に於て西洋の女子は自然に近いけれども、それでも矢張り女らしいといふ感ぢこまでも失はれない、其歐洲の婦人すら實は疑問である。又餘程人工の跡の殘つて居る婦人ではないか。先づこの問題を解決しやうとするのが、これ婦人解放論の主意であつて、つまり一度婦人をして、出來得るならば、全く無條件で、男子と同じ樣な生理的、の教育をなして見、云ひ換ゆれば全然自由に、自然に、發展せしめて遺傳から來る婦人教育の型をはなれしめやうといふのである。（女子文壇）

婦人の修養

獨立の基本を作れ

女子大學校敎授　松浦政泰

今日の婦人に缺けて居るのは自己の安心立命である如何なる困難にも泰然として堪ゆることの出來る確信力である。安心立命といへば宗教の專有物のやうであるが余は宗教の與ふる安心以外に、物質的安心といふものを加へたい。換言すれば、獨立自營の力を有するといふ確信を與へたいのである。物は何でもよい、幸に相當の敎育を受けて敎師たるの資格を有するか、又一藝一能の極意に達して居るか、兎に角まさかの時には我腕一本で世に立ち、見ん事自分の口は糊して見せる。否我家人をも路頭に彷徨はさせぬといふ確心があつたら、何んなに安心な事であらうぞ。此確信さへあつたならば、世の波風は如何に荒くとも人の心は如何につれなくとも決して失望せず落膽せず磐石の上に立つ思ひで悠々と世海の波瀾を凌ぎ、彼岸に達する事が出來やう。家に巨萬の產があつても、いつ烟のやうに消えるかも知れぬが、其時は何うなさる。頼む夫に世に秀でたる才德があつたとて、一朝病氣になつて死だらどうなさる殊に近年優勝劣敗の恐ろしい世界の風が吹いてきて、社會の潮流年を逐ふて激烈を加へ、昨日の錦今日の襤褸、貴賤貧富手の裏を返すやうにガラ〱と變り行く今の時世、今後の靑年は男も女も一層獨立自營の力を備へなくては、岌々乎として實に危いであらう。女子の高等敎育、乃至專門技藝敎育の必要な理由の一は慥かに此處にあると思はれる。（女子文壇）

服從的精神

麻布中學長　江原素六

私の見る所を以てすれば唯今の年若い女子には、到底姑と調和し之に奉仕するといふ様な德はない。尤も嫁と姑が調和せぬといふ事は今に始まつた事ではないけれども、それが大きな過ちもなく今日迄過して來たといふのは、昔の若い婦人は上下の區別をよく知つてをつた。學問こそ今の女子には及ばぬが、服從といふ事を知つてゐた、又實行して來た、それに堅固な精神があつたからである。然るに今の女子は敎育もあり智識もあるが服從的精神がない。

舅姑は年をとつてゐるから無理な事もあらう、併し多く經驗があるから年若い女子は大抵な事は自分でまけて服從するのは當然の事であらう。姑は所謂姑でない、自分の產みの母であると思へば、服從せよといつても強ち無理ではないと思ふ。それで私は小六ケしい議論はせぬたゞ先づ服從をせよといふ。

若し何事も控へめ〱にして服從といふ事を忘れぬやうにすれば、衝突は起るまい。それに就ても思ひ浮ぶ事は學校なり敎師なりが、女學生に對して新舊思想の衝突といふやうな事を話さぬ方がよい餘計な事を敎へるから嫁と姑は調和せぬもの、新舊思想は衝突するものといふ頭も出來て來るのである。（婦人畫報）

幸福は滿足の中に宿る

東京女子高等師範學校敎授　安井哲子

「幸福は滿足の中に宿り、滿足は眞の富である」といふ事がありますから、如何に巨萬の富を有する者でも、又身分の貴い方でも、心が不平不滿であれば、かゝる者も何等幸福の材料とならなくなりませう。して見れば家庭の最幸福であるのは、其家庭の人々が誰も彼も心に滿足を感ずるにあると考へます。

與へられた境遇に對して常に感謝の念を有する事であります。かく申せばどうして吾々が常に感謝にのみ充たされて居る事が出來やうかと、色々の不足を持ち出して之に反對する方もありませうが、物は見方、考へ樣で何事でも感謝する事が出來ます。

三輪田眞佐子刀自談

私は隨分いろ〳〵な境遇を經て參りましたから、人の世には兎に角喜びよりも苦しみの方が多いものだといふ事を、十分に承知いたして居ります。思へばうき難儀をも澤山に嘗ました。併し乍ら人と云ふものは、苦みに囚へられて、始終世の中を悲觀するやうに傾きましては、一歩一歩落ちて行くやうになりますゆゑ、苦しき場合にも希望を以て一心に勉めてゐると、心の底はいつもゆつたりと、樂しく暮すことが出來るのでございます。

かくて一年一年、歳月のたちます間に、私はいつか憂き苦しみを知らないものゝやうに、平和に年をとりました。私は若い方にどう云ふ場合にもくよ〳〵なさらず、健氣にしかもすら〳〵と老人におなり遊ばせと申し上げたいとぞんじます。

おほかたの人の心の長閑さと年たつ今朝のわが身にぞしる。いつも心嬉しく暮して居るものにも、殊に長閑なのはお正月でございます。（婦人の友）

跡見花蹊刀自談

私は大阪の生れでございます、家は浪速以來の舊家、遠く由緣のある系圖で、いろ〳〵な功績、名譽のある家なのでございます。と申しますのは、私の祖先は跡見赤鋳と云ふて、浪速津に緣の深い、あの聖德太子の幕下の將軍として居りました。河内の國の上の太子と下の太子との戰亂で、あの物部の守屋を誅取つたのはこの人であります。この跡見と申します姓は、履仲天皇に賜はつたのださうでございます。

斯かる舊い歷史のある家も私の幼少の頃から他人のために不慮の災難に罹り悲慘なる殁落を見るやうになつたのです。

私の家は私が再興した事になつて居ますが、これと云ふのも、みんな母のおかげなのでございます。母の嚴格な心が、私をさうさせるやうに敎へたのでございます。何も敎訓がましい事を云ふのではありませんが、母と其子とはどれ程關係があるのだかわかりません。私は何でも敎育と云ふものは家庭が一番大事だと思つて居るのでございます。（婦人の鑑）

小崎千代子女史談

丁度卒業の前でした。私の緣談が始りまして、どうしたものだらうと、とつおいつ考へて居りましたが、何にせよ生涯の大事でありますから、まだ年齢も行かない娘の心では、中々決しかねるのでございました。するとミス、スペンサーが私を其室に呼んで、この度は決心した方がよからうと云つて懇切に將來の事まで諭されまして、その結果いよいよ私も當家に來ることゝなりましたが、其時私はつく〴〵師の恩愛を感じて、遠い〳〵外國の人が斯くの異境の一少女を愛して下さるかと、しみ〴〵嬉しかつたのでございます。

實は其頃一つの野心がありまして、寧ろ獨身で敎育家になりたいと云ふ考もありましたが、其希望通り敎育家になつて居た方がよかつたか、或は今の如く主婦となつた方がよかつたかは一の疑問でありませうけれども、ミス、スペンサーも私を主婦にした方がよいと認められ、私自身もそれを自分の使命と信じて、決斷したわけでありまして、今も尙ほ當時の勸告を嬉しく思ひ、感謝してこの使命を受けてるわけでございます。（婦人の友）

訪問と接客

改良すべき訪問と招待の仕方

在倫敦　大谷繞石

一年や二年外國に居て、麵包や、バタに親しんだからとて、それでバタ臭い事を言はうとは私は思ひません。然し歸朝せぬ前からして氣に掛つて仕樣のない事が尠からずあります。バタ臭い事を言ふと思は

れるかも知れませぬが、その氣にかゝる一つを御話致さうと思ひます。それは訪問に就いてゞあります。

日本では、自己の都合ばかり考へて、勝手な日に勝手な時刻に、人を訪問する。被訪問者の都合など更に考へぬやうに思はれます。

私はこんな訪問の仕方は是非改良いたしたいと思ひます、當地では非常に人を訪問するといふ事は親友ならざる限り——絶對にないと云つて差支ありません。

日本では、自分の名刺を突出して、未知の人に面會を求める事は珍らしく思はれませんが、當地ではそんな事はありません。若し甲といふ人に面會したいと思へば、自分の知友で甲氏を知つてる乙氏の紹介狀なり紹介の名刺なりを貰ひ、それを封入して、御面會が致したいから御許容なら適當な日時を御報知願ひたい、といふ頼みの手紙を出す。すれば先方は適當な日時を——多くは午後四五時頃——言ふてよこす四時とか、四時三十分とか、正確に指定してある。

訪問する方では、フロックなり、モオニングなり着け、絹帽を冠つて、見ぐるしからぬ衣裝で、時間通りに訪問する。そして時候の挨拶がすめば早速要談に移る。要談が終れば直ぐ引取る。尤も時刻によつては御茶と菓子の出る事がある。すればそれを頂いてから去る。尻を落付けて下らぬ世間話などは決してせぬ。双方とも時間を空費せぬ。

私は要談は斯んな風にしたいと思ふ、日本では、要談とは全く無關係な事柄を長い間喋舌つて、「扨て」と更つて要談を初める。そして要談は十分か十五分ですむ程のものなのに、「扨て」までに三十分も一時間も空費する。要談での訪問は是非當地のやうにしたいと思ふ。

又、要談があるので無く、唯だ久濶を叙するとか、交情を温めたいとか、いふ爲めに人に面會したいならば、先方の都合を聞いた上で、招待するがいゝと思ふ。

斯様な風にすれば、訪問する方も、される方も、時間と金錢とを多大に節約する事が出來て、双方好都合であらうと思ふ。

序に、日本では、食事に人を招いた折、多くは酒を出す。そして酒に醉はなきやならぬ、醉はさなきやならぬものゝやうに思はれて居るらしい。私はこれも改正したいと思つて居る。慣習の惰性があるから全廢は當分出來まいが、料理をいたゞく間の、ほんの口濕位にしたいものと思ふ。當地では、「醉ふ」といふ事は紳士にあるまじき事にされて居る。醉うて大聲を發して談論したり管卷いたりする事は、實に論外の沙汰である。日本は「禮儀の邦」と稱せられて居るが、宴會の樣など想うて見るゝ。當地の方が遙かに「禮儀の邦」のやうに思はれる。

話は横に外れたが、友人の訪問といふ事は、今後是非前述のやうにしたいと思ふ。(婦女界)

急場のお客に出す
即席料理

櫻井女塾長　櫻井ちか子

だしぬけにお客がございました時、急に女中を肉屋に走らせたり、八百屋物を取寄せたりするやうでは間に合ひませんから、罐詰とか、玉子とか、とろゝ昆布とか云ふやうなものを貯へておく方がようございます。玉子などは鹽の中に埋めておけば何時迄たつても惡くなりません。それに味の素があればなほ結構です。

お客の顔を見たら直ぐお汁を拵らへて、とろゝと玉子を入れ青味でも加へれば即座にお汁物が出來ます。月見燒などもチヨッと綺麗でよいものです。これはバタアをといて、その上に玉子を落し、鹽と胡麻とで味をつけてやくので三分間位でようございます。其他有合せの麩で三杯酢をこしらへるとか、餡かけ豆腐か湯豆腐などをしてもよろしうございますし、大根おろしに海苔をかけて出すのも手輕でございます。それに罐詰を開けて一寸暖めて出せば結構です、ビフテキやオムレツも亦割に手輕に出來るのです。(婦人世界)

育　兒

子は母の寫眞

原　胤昭

凡て小供といふものは母の寫眞見たやうなもので、善かれ惡しかれ母親の性癖といふものは悉く其子供に遺傳するも

のである、ゆゑに善き子を育てんと欲するものは先づ善き母を要する、とは數十年間感化事業に盡力されて居る原胤昭氏の持論である。而して此趣意からして「婦人くらぶ」新年號にも參考に資すべき談話が載つて居る。今其概要を紹介すれば

氏は先づ犯罪人教化の困難なる趣を述べ、教育や信仰の力で抑制はして居るものゝ時々犯罪性狀が現はれて改心といふ事は却々困難なものであると說き、而してかゝる犯罪性狀の人は惡しき家庭より生ずる。而して

よく三歳兒の魂といふが、實に其通りであつて、子供が母親の胎内に在る時から三つ四つになる頃までの家庭に圓滿を缺いた場合に多い。子供が生るゝ前と生れてから三つ四つの頃は如何やうにでもなるもので三角にしやうと思へば三角な心にもなり、圓くしやうと思へば圓い心にもなる、そして一度圓いなり、三角なりの型によつて、成長すれば、もう其心は何うしても變るものではない。世の中にはあんな人の子になぜあんな惡い子供が出來たのか不思議でならないといふが、成程其結果から見ると、不思議であるが、原因に溯つて見ると、決して不思議ではない、寧ろ當然である。

子供を躾けるに二つの大切な事

青山女學院教授　塚本はま子

私は子供を躾けますのに、特に嘘を言はぬ事、人に迷惑をかけぬ事、此二つを大切な事として注意して居ります。嘘を言はぬといふ事の大切な事は申迄もありませんが、もう一つの人に迷惑をかけぬ事には、少々私は考へがあつてやつて居ります、どうも近頃は世の中に立て奮闘いたしますには、意志を強くしなければならない、他人を押し除ても進まなければと云ふやうな風がありはしないかと存じて居ります、

これは生活が困難になり、優勝劣敗とか申ことが、自然行はれて參りますので、ゲヅ〳〵して居ると、世の中の落伍者になつて仕舞ますから、止むを得ない結果かも知れませんが、それではちと人間の道といふものにはづれて居はしないかと存ぜられますので、私は子供に多少生存競爭に負けましても、兎も角も人の迷惑になつてはならぬといふ、他人をいたはるといふ心を與へたいと躾けて居ります、そして それは物心が附きさへすればすぐ躾られます、例へば玩具を取散らしましても他人の迷惑になるから早く片付けて置かなければならない、其處に何か邪魔な物があれば、他の人がそれに躓くかどうかしてはならないから、片付けて置くといふ風に教へ込みますので御座います、臺所に入りますと働く女中の邪魔になるから、勉強室で騷ぎますとお復習してる兄さんや姉さんの迷惑になるからと言つて止めさせます、此間も中學に參つて居りますのが「お母さんの云ふ樣にしてると電車に乗られないよ」などゝ申しまして、此劇しい世の中を渡つて行くに困ることがありますかも知れませんけれど、大切な事と存じ躾けて居ります、それから

も、子供を教育する上に大切かと存じます、よしやそれがどうでもよい事にしても、一旦いけないと申した事は何處までも徹すので御座います、

一寸した事がかういふ事がありました、慈善の會か何かで活動寫眞を演りますので、入場券をとりましたから、今晩は年上の二人だけは連れて行くと申しましたが出かけるとなりまして、其年下の子供も參りたいと申して大分困りました、宅では小學校の子供を七時になると寢させますことに致して居りますので、前に連れて參らないと申たものゝ、翌日は休日で御座いますし、入場券の不用の分もありますし、見せますと多少の教育になるといふ點もあり、連れて行かないと申たのは惡いことをしたとは存じましたが、一旦さう申たものですから、つい殘して參りました、

此際、もし「それでは仕方がないから

連れて行つてやらう」などゝ申ますと、子供の方では、少し泣きでもしますと聽かれるものと思ひまして、大切な事に我儘を申す樣の事が御座います、親の權威は何處までも立てゝ置かなければなりません。そのせいでも御座いますか、宅の子供の取り柄は從順な事で御座います」（ホーム）

健康

岡田式呼吸法

近頃有名なる岡田寅次郎先生の呼吸靜養法は左の如し、

△呼吸を左の如く整へよ（呼吸共に鼻より）

△息を吸ふ時胸は膨れ、下腹は凹む姿勢

△呼ふ息短く、吐く息長く、吐く時徐々下腹に力を入れ膨らす。此時水落の處弛め落す姿勢。

△常に右の方法にて呼吸すべし。

△座すると立つと歩するとを問はず常住座臥終日下腹に力を入れよ。

△座する時必ず端座せよ。アグラは禁物

靜座法

△水落の處弛め、下腹出で、尻出る姿勢にて端座。

△兩手を握り合せて股の附根に置くべし

△眼を閉づべし。呼吸は前法の通り。

△下腹部に重力を置き、上體に輕くせよ

△靜座中は呼吸に氣を勞する勿れ。

△何事をも求むる勿れボンヤリ靜座せよ

△無念無想にならうなどゝ、求むる勿れ

△餘暇あらば二十分でもよし、之を行へ

健康と感謝

禁酒運動の防害をするものゝ中に、生來の酒嫌者がある事は一寸世人の氣の付かぬ事實である。大酒家を前に置いて「どうしてこの美味い酒が僕には飲めぬだらう、つまらない」とか或は又「私は下戶で頓んとお對手は出ませぬが、どうかお過し遊ばせ」だなんて、火の燃えてる處へ油を差すのは、兎角生來の酒嫌者によくある癖で、彼等は斯くして大酒家に酒を强ひ愈々深みに陷らしむるのだ。

健康は人生至大の幸福であるが、强壯者が兎角に健康に對する感謝の念薄く、動もすれば「偶には病氣になつて見たい」なぞと、冗談にまれ戯る言葉を漏す如きは不面目至極の話である。どんな强壯者でも身一度び病魔に犯さるゝが最期、不健康が如何に苦痛で不快で不經濟であるかゞ直ちに分ると同時に健康の如何に幸福なるかを痛切に會得するのである。强壯者たるもの努めて輕卒の言を弄し、或は感謝の念を忘れてはならぬ。（健康第五號）

ビールの害

麥酒の害は「ホウヰスキー」より甚し、加奈陀發刊紙「ピオニール」の所載に據れば「ホウヰスキー」の如き强酒を飮むものは恰も獅虎に襲はれたるが如きものにして、其勢の猛烈なるがために、一握みの下に直に死に至るあり、又大傷を蒙るあり、又時として全く禍害を免るゝ者なきに非ず、而して又其害の著明なるは飮者は勿論、傍人にも普くこれを識認するを得れども、ビールの害に至りては然らずして、其性緩和淡白湯茶の如きが故に、世人は格別に意に介せずして之を飮用する常に多量に及び、遂に其結果酒害は飮者の纎維組織に侵入し、其肉體と精神を漸々に腐蝕せしむるに至る、されば比較上其害は强酒よりも甚しとなす。

英、佛、米、獨の醫學協會に於て發表せる證明に依れば、最も危險なる患者の多分は多量のビールを飮用したるものなりとす。而して又肺炎其他の熱病にかゝり他人の容易に全治すべき場合に當り、彼等ビール飮用者が不治の悲境に陷ることは、其例甚だ少からず、就中肥滿の徒に於て多く見るところとす。（國の光）

恐るべき虚榮心の犧牲

△貴婦人の萬引事件▽

婦人記者

◎はしがき

三越呉服店に賣出しのあつた時、目白出の秀才某女が、しかも資產豊かな家に生れ、身は我國最高の學府に學び、榮譽ある將來の幸福に向つて居る身も打忘れ僅か三圓餘の更紗縮緬一反の爲めに、萬引婦人として累絏の罪人となり、親兄弟母校友人に迄も少なからざる汚名を被らせた事は、誠に以て沙汰の限りであつて、常識から考へる事が出來ない樣な感じがする。たゞそればかりでなく、白木屋の賣出しの時にも數名の萬引女が捕へられたので、當時の新紙は筆を揃へて三面紙上を賑はして居た。そして何れも其婦人は、中流の生活を營んで居るところの人であると報じて、更に眼に美しいと見へる衣服に對する虚榮心の亂用程怖る可きものはないと論じて居る樣であつたが、全く其通りで、其者が裁判官の審問に答へて居るのにも『私は其品物を見て噫々美しい欲しいなと思ふた。其刹那如何にして盗んだか殆んど自覺しない位でありました』と言つて居るのを見ても、一時の出來心程恐ろしい結果を生ずるものは無いと、益々戰慄せずには居られないのであります。

松○第廿○聯隊長○○中佐夫人が、小間物屋で萬引をした事件が、とう〳〵夫婦離散親子生別の悲劇の幕となつた事實なども其一例で、人の非を掲ぐるには忍びないが多數の婦人が、今後の心得草ともなれかしと祈る心の一端より、今其事實を紹介する事にしやう。

◎彼女は絶世の美人であつた

○○中佐夫人□□△△子の生家は、松山藩の武士の家であつて、△△子は小柄な美人、濃艶な八重櫻とでも評してよろしいが、とても五人の子女の母とはどうしても見る事が出來ぬ、頗る若作りな初初しい美しい女であつた。それ故まだ幼ない時から、みめよき人よ美人よとの評判高く、年はまだ二八の頃に○○氏に嫁いだのであつたが、素より利潑な彼女とて、夫婦の契りも睦まじく學校の教育こそ充分ではなかつたが、世才にたけた上に辯舌のうまい事水の流るゝが如く、其上に派出好みの交際上手と云ふので、接する人皆チヤームされ、ほんとにお美しい奥樣だ、發明な夫人だと、ほめぬ者は無い位で、殊に聯隊長夫人として、部下の將校連の夫人達の上に立つていさゝかの遜色もなく、得意の生涯であつたのである。

◎事の爆發はオペラバツク

此忌々しい事の起りは、常に同家に出入する小間物屋の店員が、いつもの如く

商品を携へて用聞きに行つた後、オペラバックが一個紛失して居るのに心付いたけれども店員は、主人の手前は他へ賣却した樣にとりつくらつて、自分の財布から代價を償なつて置いて、油斷なく注意をして居た或日の事某自轉車屋の店先に件のバックが置てあるのを見て『失禮ながら此袋は何でお求めなされしか』と何氣なく尋ねたところ、自轉車屋の神さんは、『それは○○樣の奥樣から子供が頂戴したのですよ』と答へたので、店員は歸店後主人に仔細を話して善後策を考へて居たのであつた。

◎淺間しき虛榮の虜となつた夫人今度は自身小間物店に來る

小間物屋の主人及び出入り係の店員はどうしたら御得意先へも傷が付かずにすむだらう、と凝議をして居るところへ、孔雀の如く飾つた△△子は、流行の指輪が見度しと云つて入り來つた。何氣なく迎へて彼是と出して御目にかける内にも油斷なく其擧動に注意して居るとも知らす、一個の指輪を胡麻化して後、別に氣に入つたのがないからまた此次にしやうといつて店を出て行つたのを見て、主人初め店員は、顏に似合ぬ奥樣だ外面如菩薩内心如夜叉とは此事だ、一時も猶豫すべきでないと決心して、扨其翌日店員は○○家を訪づれて『昨夜お持歸り遊ばした指輪は、お買上になりますのでしやうか左樣なれば代價を早速ながら頂戴致し度い。』と申込んだ。急所を突かれて△△子は、如何なる答へをしたであらうか？彼女は却つて立腹を示して、出入者として誠に失禮千萬な申掛りである、何も持歸りもせぬものに對して何と思つてそんな事を申出るのであるか、以後邸へ出入は堅く差留めるから、左樣心得る樣にと高飛車に出たのである。その爲め小間物屋でも默つても居ず、遂に告訴となり、裁判沙汰となり、巷の噂となつて、婦人問題には至つて靜穩な地方新聞は、古來未曾有の事件として書き立てる、火の手は益盆熾んに立ち昇つたのであつた。

◎此事件の巷の噂

田舍は田舍だけに物見高い其上に、相手が中佐さんの奥樣だといふので、其評判も亦大したもの、小名木川の首無し事件以上の大混雜であつたらうと思はれる。

成程血統は爭はれぬものだ、瓜の蔓に茄子はならぬ。ロロ家には既に盗人の血が流れて居るのだ。まだ舊藩の時分に、△△子の伯父に當る人は、隣家の盆栽を盗んで何喰はぬ顏をして居たところ、惡事現はれて絶對絶命、遂に詰腹かつ切つて死んだとやら。彼女の從姉に當る何女は、娘盛りの時に家出して、所々方々を放浪の結果、今では女箱乘りとして有名な姐さん株になつて居るんだげな。噓か眞か知らないけれども古い傷さへ事新らしげに言ひ囃す巷の噂の喧ましさ、愈明日が公判だと云ふ時には、短かい夏の夜を寢もやらず、好事家の彌次馬連中は、裁判所の門前で夜明かしをしたといふ事であつた。

◎公判廷に於ける△△子

屠所の羊のそれならで、公判廷に引出

された△△子の心中やいかにと、同情を表して居た或一人は、傍聽席から其態度を眺めて『△△さんは偉いもんだ、漆黑の髮美しう大廂の一筋亂れぬ束髮に、お召の單衣、絽縮緬の丸帶高らかと、お太皷に占め、薄化粧の眉の邊り、すこしは憂愁の雲は見へたが、さすがに落付た答辯振り、言語明晰、滔々として否定する態度は、實に以て感心であつた。さりながら事が眞實であつたとすれば、惜しい事をしたものだ、才氣を惡に亂用したとは此事だらう』と言つたとの事で、其とり〳〵の噂さの裡に、懲役六ケ月三年間刑の執行猶豫と云ふ判決が下されたけれども、△△子は之に服せずして上告したが、猶其他に二三犯罪の形跡も現はれたとかで、係りの檢事は廣島縣迄出張して取調べた結果、第二回の判決は、懲役三ケ月と申渡されたけれども、△△子は更に不服なりとして上告に及んだといふが、其後の事は耳にせぬのである。

◎事件發生以後の〇〇□□兩家の悲劇

事一度公然と發表されてからの〇〇□□兩家の有樣は、誠に洪水の引跡、大火の燒跡の如く、實に悲慘なものであつた國家の干城として聯隊に長たる中佐の立場として、數年間偕老の契り淺からぬ夫人が、斯の如き行狀を敢てした事は、さぞ〳〵斷腸の思ひであつたらう。それかあらぬか、表向離緣といふ名目の下に、夫人の生家□□家へ△△さんは預けられるといふ有樣。昨日迄も今日迄も、兩親の膝下で浮世の浪風しらぬ令息令孃は、今や此不心得な母と生別せねばならぬ事となつたのみならず、學校に行けば友達から君のお母さんは泥棒だよ、萬引の子だと罵られ、嘲けられ、子供ながらも肩身が狹く、日日の學校も忌み嫌ふ樣になつて來た。中佐は其筋へ進退伺ひを差出した結果滿洲軍附として轉任の辭令に接し、滿腔の哀愁と、不言の思ひ斷腸の念を、凜々しいカーキー色の軍服に包んで赴任する一方數人の子供達は、又父にもしばし離れねばならぬ事となつた。聯隊長の令息令孃として人からうらやまれた昨日の榮えは、急轉直下飛花落葉、人世の悲慘何を以て之に例へる事が出來やうぞ。

はる〳〵と九州宮崎の中佐の母堂が、子供や家財を引まとめて、寄る年波の老の身の、またこれからは孫の世話面倒を見る、これも宿世の因緣であらうとあきらめながらも老の愚痴、噫々嫁の不心得限りの爲にこんなになつてしまつたと、無き淚に多數見送りの人も袖を絞つたといふ。生者必滅會者定離は之れ佛者の敎へである。死別生別は人生悲しき事に相違ないが、身分ある人の妻として行末の幸ある子供等の母として、たつた一個の袋、一個の指輪の爲めに、殆んど取返しの付かぬ破目になつたのではないか、實に恐れて怖る可きは虛榮に憧がれる卑しい心の滿足である。聞けば其指輪は價十圓前後の品だといふ。さすれば袋と共に價に直せば二十圓足らずの金額である。噫、僅か二十圓の金で夫の名譽、子供の將來、自分の身をも殆んど社會上の地平線下に埋沒してしまつた前〇〇夫人△△子の心は、實に淺間しい限りではないか愚の至り痴の極ではないか。それのみならず今日續々として現はれる社會上の罪惡の裏面には、婦人の淺果な慾望が原因をなして居ると聞ては、實に恐ろしい事であるといはねばならぬ。

現代婦人の空想

荒木三雄

現代婦人の多くは實に驚くべき空想に耽つて居て、虚榮と云ふことが終始其腦裡を離れぬので、之が爲めには身を果し家を亡ぼし名譽を汚し節操を棄つるも更に悔ひない有樣である。殆ど何物をも犧牲に供しても構はぬ唯だ目前の逸樂にのみ憧憬して、出づるに車馬を軋らせ、入るに綾羅の裳を垂れんことのみを望むは實に空想と云はんよりは却て病的化する狀態である。何んと歎はしい次第ではあるまいか、往時は親達から利慾に溺つた如何はしい緣談でも申聞けくれると潔く刃に伏して家の汚れを未然に防いだものである。それが今日では親が迷へば妙齢の處女までが、しやアつくになつて「私し金持でなくちや嫌だわ」なんて其勘定高いことつたら呆れが禮に來るやうな始末、之をして現代主義とすれば正に我利我利の亡者が一番幅を利すの世界で理窟もヘツだくれもあつたものぢやアない。隨分以前には女郎でさへ降るアメリカに袖を濡さなかつた龜遊や、手鍋提げてもと云つて金持を袖にして好んで貧乏世帶に甘んじた者があつた。處が今ちやア立派な令孃が先方の財產の多寡を數へて嫁入を決着するなど丶來ては全で雲助根性としか申されぬ。昔から「惚藥佐渡から出るが一番利き」と云ふ川柳點もあるけれど、それを現實に且つ普遍的に臆面なく實行されては社會の風紀は益々墮落する許りである。一體本誌の目的は廢娼論が大理想であつて、成程それは藝娼妓の狀態も悲慘に違ひないが、然し元々恁んな賤業を選らうと云ふ者は多く自分から求めた、云はゞ身から出た銹の自業自得である。而して渠等は殆ど下層の遊民であるから影響する範圍は甚だ狹小であるが、之に反して上中流の家庭に如上の通りの誤想が蔓延した日には地位の高い丈けそれ丈け社會の秩序を破壞することも從つて一層激しいと云ふもので寔に寒心に堪ぬへ次第である。これは社會政策としても何とか匡正の途を講せねばならぬかと思ふ。現に拙者が接觸した實例で恁んな話がある。それは私の懇意な者で立派な高等官の娘ですが、何でも五十萬百萬とかの資產家から緣談があつたが、先の男は素姓の宜くない如何はしい人物で、何でも酷い徒名の在る男だが、それでも金のあるのが目當に大分親類の反對もあつたが一切踏切つて到頭其處へ行つて了つた。これなどは隨分酷い話で元々然ういふ評判の男だから何うせ日影者で何處へも顏出しは出來ないが、例へ肩身が狹くつても金に困らなければ構はないと云ふ意氣込みですから何んのことはない人間へ嫁入るのでなくて金が相手なのだ、金貨と婚禮したやうなものだ、又た或人の娘は海軍士官へ行つたが門が穢ないとて出戻つて今度は子爵の華族へ行つたが、この娘などは全で門と婚禮する積りだらうと云つて大笑ひを催したが、今の娘氣質と云へば大方は皆な恁んなものである。形而下の事物は年々發達向上するが、形而上即ち道義は反比例に益々腐敗する許り、兎角人心は阿堵物の前に弱いとは申すもの丶此儘で推し進んだなら前途は頗る悲觀すべきとでありませう。

會報

廓清會紀要

△吉原樓主連と救世軍の會見

十月卅日、前々號よりもやま欄に於て報道しておいた救世軍と吉原の會見は、吉原側より無期延期を申込み、遂に會見に至らずして立消となつたのであるが、今其顚末を記さむに、吉原の貸座敷二百五十七戸の內、大火以來假營業を開始したるものは漸く百四軒に過ぎず、其中には旣に本普請に着手せる者もあるが來年四月の期限迄に獨力にて本普請をなさんとする者は四十軒位の見込で、現在假營業をしてゐる者すら此の如く、殘れる樓主は然る可き金主を探して開業せむと奔走しつゝありし處へ、我廓淸會の廢娼運動と共に、着々其實行的方面に別働しつゝある救世軍は、去る六月以來自由廢業の手續を印刷せるものを、大門口に立つて入り來る嫖客の手より娼妓に渡さしむる等、種々の手段を以て娼妓の廢業に努る爲毎日の如く自廢者が續出するので、さらぬだに前記の始末に大息吐息の樓主連の恐慌一方ならず、代表者をして同運動の手を弛められん事を、山室軍平氏に交涉したるも、山室大佐は斷然之を拒絕してゐた矢先、樓主連の最も怖れをなし注目を怠らざる廓淸會にては、萬國廢娼同盟會からグレゴリー氏といふ應援の士を得、大運動を起し遊廓を全滅せしめむ勢なので、大火よりも廢娼の風が恐しいとて、周章狼狽して、開業の準備中なる樓は殊更騷ぎ出し、金主側も折角契約をなさんとせし金談も、昨今二の足を踏む向多く、營業中の樓主も到底見込なしと見切つて、廢業又は讓り渡しの計劃をなすものもあつて、遂に三業組合取締辨中樓事小林櫂二郎、副取締梶田樓事梶田永之助、事務長英輝樓事黑澤英輝、小川樓事小川作藏、長稻辨樓事山田喜久三郎、住八幡樓事佐橋健次郎の七名は、種々協議の上山室氏を柳橋の料物店深川亭に招き席上愁訴歎願する事に決し、此旨同氏に申入れたけれども、淸廉潔白なる氏は、お茶一杯なりとも馳走に預るは本意にあらず、のみならず嚴肅なる廢娼問題に就き述べんと欲する處も自然言ひ謚る譯だから、一步讓つて先方の希望を容れ、銀座の救世軍本營か廓淸會本部、即ち神田の青年會館に於てならば會見してやらうと回答し、二十六日午後一時半青年會館に於て會見する事となり、山室氏はあべこべに彼等に其惡業なる事を說き、一日も早く正業に就かん事を勸告せん筈なりしも、當日は生憎建築材木橫領事件の爲、警視廳に召喚されてをるから、來る三十日に延期されたしと、中介者福田某より申込んで來たので其日は其儘に終つたが、さて同日會見の由を傳へ聞いたる各新聞記者連は、青年會館に山室氏等と共に待ち構へてゐたので、翌日の新聞には筆を揃へて吉原の大恐慌とか、樓主連救世軍に降參とか、樓主連救世軍に哀訴歎願すとか、二號活字で堂々と各一段にも亘つて掲げられた。吉原側に取つては之が非常なる打擊であつて、彼等は秘密に會見せん事を望んでゐたのであつたらうのに、却つて彼等の狼狽の有樣を社會に暴露する結果を生んだのは笑止千萬であつた。果然三十日に至り「今日の會見は新聞其他の注目を惹きたれば延期したし」との電話があつて、間もなく山室氏宛中介者福田氏より

拜呈、豫て貴意を煩はし候件、過日青年會館にて會見の際も直ちに新聞紙上に現れ、如何にも面白からざ

る次第に有之候。實は斯る至難の事柄は未決の間に新聞に報道いたし候事は、事態を解決する最良の方法に非ずと存候。而も本日は各新聞社にて注意致し候由なれば、當分會見を止め、他日遠れて會見仕度右は小生の存意に有之候間、此儀吉原の方へも申遣はすべく、多分異見無之るべくと存候。何卒惡からず御了承被成下度願上候拜具。

十月三十日　　常松

山室様侍史

追而本日會見の儀新聞紙に現はるゝ場合は此手紙の眞意を誤らざる様、御報道被成下度奉願上候

といふ手紙が着いたので、待ち構へてゐた山室氏始め各新聞記者は、おや〳〵と呆れて引取つたが、記者連は更に吉原に進擊して其理由を聞かうといふので押しかけた。かくて翌日の新聞には、新聞に知られたから延期とか泣寢入とか麗々しく書かれたのは、寧ろ氣の毒であつた。

△內務當局者との會見

十一月四日、グレゴリー氏は、山室評議員、益富常務理事の兩氏と共に、內務省に於て床次內務次官、古賀警保局長、小橋衞生局長、小濱警視廳第二部長、其他此問題に關係ある內務當局者と會見し、グ氏は歐羅巴に於ける廢娼運動の今日迄の經過を述べ、此運動の結果各國とも風儀上衞生上著しき効果を擧げ居る事實を、幾多の材料によりて證明し、古賀局長は軍隊と衞生問題に就て一二質問する處あり、グ氏は英國の實例を取りて之に答へ、軍隊の側に公娼を有せし時代と、之を廢したる時代とを比較すれば、軍隊の風儀は著しく良くなつた。尤も之は公娼を廢止せる爲のみの結果ではない、分娼を廢止すると同時に軍隊の間に一種の放蕩禁止會ともいふべき種類の矯風運動盛んに起り、一方に於ては外に出て快樂を求めずとも兵營內に於て、充分に娯樂を得られるやう樣々の設備をしたのであつた。で要するに軍隊の成績が衞生上風儀上良好になつた事實は、數字の上より明に之を示すことが出來ると答へ、其他自由廢業の問題に於て、床次々官を始め內務當局者と山室大佐との間に、救世軍に取りて有益なる問答あり、益富氏は今後互に當局者と意志の疏通を計り、此廓淸會の運動を進めて行きたしとの希望を述べかくて長時間に亘りて懇談した。

要するに此會合は、廓淸會對內務省との會見ではなくて、グ氏を當局者に紹介するに過ぎなかつたが、認外にも有益なる會合であつた。何れ今月島田會長が米國から歸られたから、其內正式に當局者と會見を遂ぐることになるであらう。

△陸軍省當局者との會見

十四日、午後一時、グレゴリー氏、山室評議員、益富常務理事の三氏は、陸軍主計監＝匹信亮氏の紹介にて陸軍省醫務局に於て森軍醫總監と公娼と軍隊の關係について意見を交換した。

文藝の人として森歐外博士は、嘗て『性慾史』などを作つてゐられるが、軍醫總監、醫務局長として軍隊に頒布するために、『應急治療及衞生の心得』を著はし、其中に『壯年の人久しく性交を絕ち居る時は健康を害すといふものあれども、誤りなり信ずべからず。』と記して居られるだけに、廢娼運動には少なからず同情を寄せて居られる。

更に三氏は同局衞生課長山田弘倫博士と會見し、グ氏は、英國に於ける公娼廢止後の軍隊の氣風に就て語り『同國では二十八年前迄は軍隊の所在地に十八ケ所の遊廓があつたが、一時廢止說が起ると、國人は道理上こそ之を承認したけれども、それに伴ふ、花柳病の蔓莚を恐れたものだ、然るに三年後に至つて斷然之を廢止したところ、軍隊の氣風は著しく向上し、且つ意外にも花柳病が減少した、之は同國政府

自から公表してゐる所であると語り、課長も之を承認し、山室評議員は短刀直入公娼全廢に對する同博士の意見を叩き、博士は、他に風紀警察の力大になり、又は衞生的條件を充たす適當なる方法さへ立てば必ずしも現在の如き公娼の必要を認めず、と答へ、今日の遊廓には改善を加ふべき必要ある旨をも言明せられた。尙益富氏は、陸軍の間に例の放蕩禁止會の如き運動を始めては如何、御贊成あるべきやを問ひ、博士は、そは聯隊長の權限に屬する事となるも余は大に其の如き運動を歡迎すと答へられた。かくて二時過ぎに退出したが、此日も頗る有益なる會合であつた。

△市内各牧師との會談

十六日、青山學院長本多庸一氏、明治學院總理井深梶之助氏、中央會堂牧師平岩愃保氏を始め、都下各教會の教役者數十名を青年會館に招き、矢島副會長司會の下にグレゴリー氏は、山室軍平氏の通譯にて、別欄に記載せるが如き演說をなし、山室氏は內務省及陸軍省當局者との會見の顚末を逃べ益富理事は本多氏其他の希望により、立ちて本會運動の經過を說き、轉じて反對者の論據となり時として贊成者の杞憂となる廢止後の如何に就き明白に論辯するする處ありて、熱心に諸氏の援助を乞ひ、遙に態々群馬縣より來會せられたる、前群馬縣會議長齋藤壽雄氏は自己の醫師たる立場より、今日の檢黴制度の何等の効果なきを說き、吾等の背後には細菌學者といふ後盾ありとて、動もすれば衞生上より公娼を必要とする論者の妄を駁し、更に會衆の質問に應じて群馬縣廢娼の結果が極めて良好なるを說明し、私娼の跋扈する事なきやといふ問題には、無しと答へ、こは警察當路者の手加減一つにして、極めて容易に掃蕩する事をも得と說き、益富理事は一一實例を擧げて之を補する處あり、懇談數刻に及び平岩牧師の祝禱を以て散會した。

△浸禮教會に於ける演說

十八日、午後七時、神田三崎町の中央バプテスト會館の聘に應じて、グレゴリー氏は、吉原廢止と其善後策と題して演說を試みた。聽衆二百餘名にのぼり中々の盛會であつた。グ氏は同館高垣教師の通譯にて、余は日本の缺點を見むが爲に來れるに非ず、寧ろ努めて美點を見む事を欲するが故に、吉原が如何なる狀態にあるかは余の知るを要せざる處で、吉原の廢止と其善後策を講ずるは日本人の問題にして我等外人の容喙すべきでない。余は唯我英國の廢娼の結果を告げて諸君の參考に資すれば足るのであるとて、英吉利が二十五年前歐洲に率先して廢娼を斷行したる結果は、諸方面に亘りて善良なる効果を擧げつゝある事を語り梅毒患者の如きも著しく減小したる事實を統計的に述べ、之れ廢娼の斷行と共に當局者と心を協はせて矯風の道を圖りたるによるとて、名譽義團に就て語り、益富氏はグ氏演說中の名譽同盟より說き起し、名譽同盟とは即ち道樂禁止會の謂なりとて、廓淸會の趣旨に論及し、公娼制度と道德との矛盾に就て語り、立ろに此人道上の大運動に馳せ參せむとする數名の青年會員を得るに至つた。

△學生青年會

十九日、午後三時、市內の主なる學校の青年會の役員諸氏を本部樓上に招く、招待狀を出したのがやつと其前日で、何分突然至急の招待だつたのでどうであらうかと少からず心配してゐたところへ、生憎の雨、或は延期の止むを得ざるであ

らうと思ふ所へ高等工業、東京學院、明治學院、東京高等師範、慈惠院醫學專門等から來會せられたので定刻開會、主人側はグ氏に益富理事、それに全國學生青年會幹事フイッシャー氏、及同小松武治氏の主客合せて十餘名、卓を圍んで廓清會の趣旨を説き、公娼制度の打破は學生の問題に非ざれども、廓清會はこれが打破と共に男女間に貞潔の徳を奬めむとするものにして、英國に於けるThe Alliance of Honour を含み、我が禁酒會等の如く、且つ禁酒會なごよりも尚一層切要なるものなるが故に、青年學生と雖此意味に於て苟も人格の修養を念とするものは本會の會員若くは援助者たるべしとて、主人側の交々説く所有て、來會者の熱心なる贊同を得高等工業高等師範及慈惠醫院等にては同學校青年會主催となりて近々廓清演説會を、東京學院及明治學院に於ては不日同じく廓清演説會を開く事を議決し、日暮れて六時散會した。

△學生青年大演説會

二十四日午後六時、青年の爲め特別集會を神田青年會館に開く、益富理事は廓清會とは何ぞや、と題し本會成立の所以より現代青年の覺醒を促し、グレゴリー氏は、英國に於ける名譽同盟の現況を説いて邦人の反省に資し、山室評議員は最後に純潔と題して滔々人格の修養を説き來會者約百五十名に過ぎざりしも、却つて健實なる會同を見たり。

△東京學院廓清演説會

二十五日午後六時牛込區佐内坂東京學院講堂に於て、同校青年會主催、高井文學士司會の下に開會、益富理事は本會組織の趣意より男女の貞潔に就て説き、クレゴリ氏は同院佐々木教頭の通譯にてAlliance of Honourと題して縷々青年に適切なる演説を試み、千葉神學博士は修養の秘訣と題して、修養の秘訣は一に神を愛するにありと結び、數名の入會者を得て九時閉會、來會者約八十名

△力行敎會廓清演説會

二十六日午後七時、小石川鶴龍町力行敎會に於て開會、山室大佐の純潔の徳と題して一時間半に亘り、獨得の雄辯を奮ふて聽衆を魅し九時閉會、來會者百名

△フレンド敎會演説會

同日午後六時、芝三田フレンド敎會に於て、同敎會並に明治學院學生青年會主催のものに開會、益富理事の廢娼論の眞義、グレゴリー氏の青年と公娼問題と題して、熱心に青年の風紀廓清に努め、九時閉會、聽衆約百五十名

△中央會堂廓清演説會

十二月八日、午後六時本郷春木町中央會堂に開會、山本理事の廓清會に就て、安部副會長の公娼廢止と其善後策、グレゴリー氏の青年と公娼問題と題し、各此の制度の百害あつて一利なき惡制なることを痛論して存娼論者の妄を駁し、穩健なる廢娼論を立し、喝采聲裡に閉會、來聽者三百五十名に達し、階上階下殆んど滿員の盛況を呈した。

以上の記録は昨年の十二月號に掲載する筈であつたが、紙面の都合によつて遂に本號迄延期したものである。其後の活動に就ては、群馬支部の設立の如き、水戸に於ける演説會の如き、さては大阪遊廓の大火に對する我々の運動の如き、記すべきもの一にして足らないけれども、乍遺憾之を次號に讓る事とした。

△島田會長歸る

太平洋沿岸の招きに應じ、八月三十一日米國へ渡航せられたる島田會長は、本日五日歸朝せられた。今其米國に於ける消息の概要を聞く。

「カルフォルニヤに於ける日本人經營の實狀や、米人の排日の如何なる形勢を以て現はれるか、果して如何なる程度の顯現であるかを見て、オレゴン、ワシントンの緊要の地を視、更に英領加奈陀バンクバーを中心として其地の日本人の狀況を視察した、インターマウンテン地方（州で云へばユター、コルラド、ワイオミン、市で云へばソートレーキ、オークデン、テンバー、ベーフー、シャイアン等の地を云ふ）の日本人經營の地を歷訪し更にシカゴを經てデトロイドを視た。それからニューヨークに赴きボストンに至りワシントンを視て道を南方を取り、ニューオルレアン、ヒユーストンを經てサンフランシスコに戻り、中部東部の實狀を桑港の朋友に報告して諸種の打合せをした後、十二月十九日出航のサイベリア號にて本月五日歸朝した。

今回の渡米は、日本人の經營地を歷訪し、双方の事情を疏通せしむるといふのが、當初の目的であつて、永く滯米の同胞に本國の近狀を詳細に報告し自己の意見を同胞に述べるのが一つであり、在留同胞の狀態を視察して之を日本に報告するのが他の一方の目的であつた。で日米間の圓滑なる交情を進めむが爲め、日本の平和協會々頭大隈伯爵から此點に力を致せとの委托を受けたので、機會を捉へて日米の親交を進め、浮說の爲に阻害せらるゝ理由なきを米人に告げた。如斯今回四ヶ月の、往復を除いて三ヶ月足らずの日數に、あまりに多くの旅程を經、日短くして事多き旅行なりし爲め餘力を廓淸事業の上に及ぼす事が出來なかつた併し矯風會の運動の爲、廓淸の趣意を述ぶるの機會をオークランド、サンフランシスコ、バンクバーの三ケ所に於て（主に教役者と婦人との集會で）三度辛く爲る事が出來た。それは丁度桑港の運動を終る頃、東京の本部から廓淸雜誌が教役者、矯風會の人々の爲に配付せられたので、時日は差迫まつてゐたが特に矯風會で開いて吳れたのであつた。

廓淸會の運動とか、矯風會の運動は、米國に於ける日本人發展の爲め、頗る大切な事で、此目的の爲めに渡航する人があつたら非常に結構な事と思ふが、何分にも今回は經濟的國際的の渡航であつたが故に社會矯風の上に盡せなかつたのは眞に遺憾である」云々

△廓淸會臨時寄附芳名錄（第二回）

金百七圓九拾參錢也	グレゴリー殿
金拾圓也	ホッダー少將殿
金拾圓也	救世軍殿
金拾圓也	角谷和平殿
金拾圓也	無名氏殿
金拾圓也	飯野吉三郎殿
金五圓也	神戶矯風會殿
金三圓也	麻布青年婦人會殿
金貳圓也	山室軍平殿
金壹圓也	ミセスバック殿
金壹圓也	大塚つね子殿

會員名簿（第一回）

▲贊助會員之部 （順序不同）

神田區柳原河岸 （四十口）小林富次郎殿
赤坂區榎町小崎方 （四十口）老人會殿
ミセス、コルドン
府下澁谷中澁谷 （一口）角谷和市殿
本所區横川町 （一口）大澤京之助殿
京橋區銀座 （一口）矢沼伊三郎殿
小石川區高田老松町 （四口）ミセス、ブリーデル
麹町區中六番町 （一口）白井胤緑殿
佐世保市濱田町 （一口）矢島重虎殿
久留米市東竪町 （一口）瀬川淺殿
市外戸塚村 （一口）柏井園殿
神田區三井慈善病院 （一口）船尾榮太郎殿
麹町區上二番町 （二口）普賢寺轍吉殿
内務省地方局 （一口）生江孝之殿
麻布區麻布中町 （一口）今井壽道殿
麹町區有樂町 （一口）安孫子貞次郎殿
京橋區弓町 （一口）荒木眞弓殿
京橋區紺屋町 （二口）増田義一殿
麹町區一番町 （二口）龍居賴三殿
京橋區越前堀 （一口）和田てる子殿
府下東大久保 （一口）竹越竹代子殿
牛込區喜久井町 （一口）内海きん子殿

牛込區佐内坂町 （一口）岡林稱子殿
小石川區久堅町 （二口）安井哲子殿
麹町區三番町女子青年會（一口）小橋みよ子殿
神田區南神保町杉山方 （一口）松崎政次郎殿
北海道旭川六條通 （四口）ピヤソン殿
同 （二口）旭川婦人矯風會殿
前橋市横山町 （一口）松宮彌平殿
府下巣鴨 （一口）田村直臣殿
小石川區上宮坂町（一口）Mr. H. H. Coates
神戸 （一口）マッケンク
麹町區一番町 （一口）石原謙殿
赤坂區青山南町 永島博子殿
靜岡市北番町 （一口）原崎源作殿
兵庫縣武庫郡六甲村 （一口）西川玉之助殿
小石川區指ヶ谷町 （一口）野口島子殿
c/o Robert Dollar Co. Hongkong
（一口）Mr Geo. H. Warren
" （一口）Mrs Geo. H. Warren
Kiykeni Chail House Mayfole Scotland
（一口）Mr. Yathr James Bargill
芝區伊皿子町 （一口）コールマン殿
仙臺市宮城女學校 （一口）Mis Weidner
岩代國北會津郡大戸小學（一口）皆川健三郎殿
府下千駄ヶ谷 （一口）宮腰信次郎殿
四谷區東信濃町 （二十口）猪俣泰作殿
神田區三河町 （一口）小林照雄殿
神田區仲猿樂町 （一口）西鎮殿
府下淀橋柏木 （一口）大森兵藏殿
赤坂區靈南坂町 （四口）大倉文二殿

小石川區指ヶ谷町（四口）ミス、ペンフアインド殿
神戸市下山手川本方 （二口）神戸矯風會殿
牛込區辨天町 （一口）Mr. Benninghoff
赤坂區青山學院内 （一口）Mr. Chappell
京橋區築地 （一口）Mr. Mckinn
麻布區本村町 （一口）Mr. Green
小石川白山御殿町 （一口）Mr. Clement
牛込區佐内坂町 （一口）佐々木梅治殿
芝區白金明治學院 （一口）Mr. A. Oltmans
同 （一口）Mr. M. E. Hoffsonmer
同 （一口）Mr. H. M. Landis
芝區三田功運町 （一口）Mr. G. Bowles
神田區美土代町青年會館
（一口）Mr. G. M. Fisher
本郷區駒込林町 （一口）井上秀吉殿
本郷區若宮町 （一口）伊藤尙吉殿
東京府下大久保百人町 （二口）益富政助殿
同 （二口）益富幾能殿
大阪市北區中ノ島 （二口）林歌子殿
赤坂區青山學院 （四口）木多貞子殿
小石川區原町 （二口）戸川秀子殿
小石川區第六天町 （一口）高崎介藏殿
熊本市古新屋敷 （二口）瀧本みつゑ殿
麹町區中六番町 （四口）植村正久殿
麹町區上二番町 （二口）矢島揖子殿
小石川區原町酒井伯邸 （一口）阿部鶴子殿
赤坂區榎町 （一口）湯淺治郎殿
麹町區中六番町 （四口）島田三郎殿
同 （四口）島田信子殿
大阪市西區南泉尾 （一口）清水たね子殿
神田區三崎町 （四口）角倉賀道殿

▲正會員之部（順序不同）

愛媛縣今治町　蜂谷德三郎殿
愛媛縣今治町　杉原秀三郎殿
愛媛縣今治町　秋山基資殿
愛媛縣今治町敎會　王女共勵會殿
京都市同志社　勝見徹郎殿
京都市同志社　木原竹一殿
高松市東濱町　三宅賢太殿
赤坂區丹後町　吉成作次殿
神田區青年會館內　小山陽吉殿
神田區青年會館內　高島爲雄殿
神田區青年會館內　長澤貞藏殿
東京府下澁谷　藤井豐吉殿
愛知縣碧海郡新川町　奧谷源太郎殿
牛込區築地町　水上熊吉殿
愛媛縣宇和島町　松崎滿藏殿
大阪市西區江戶堀　安藤しん子殿
大阪府濱寺公園　大塚つね子殿
大阪府濱寺公園　田口たけ子殿
長野縣西筑摩郡山口　安田領七殿
赤坂區青山南町　逢坂信吾殿
東京市外千駄ヶ谷　正木松一郎殿
東京市外下澁谷　中尾敬次殿
愛媛縣今治町敎會　長谷部宗十郎殿
愛媛縣今治町敎會　中井佐一郎殿
東京府下雜司ヶ谷　佐相寅藏殿
牛込區築土八幡町　小河滋次郎殿

小石川區林町　村上專栴殿
布竹谷町　永安恕殿
靜岡市外北安堂　城のぶ子殿
大連市伏見臺　柴田博陽殿
赤坂區青山穩田　久留島武彥殿
大阪市北區綱紡　西村清治殿
麴町區女子學院　三谷民子殿
神田區小川町　加藤きみ子殿
芝區二本榎西町　奧平敏子殿
神田區小川町　吉川仙太郎殿
麴町區女子學院　河原ゆき子殿
麴町區女子學院　中川眞砂子殿
京橋區下山手　Mr. E. C. Jones
麴町區五番町　津田梅子殿
牛込區矢來　小山正武殿
東京府下西大久保　三井せい子殿
芝區愛宕下町　荒井桐月殿
京都市新町通　谷本富殿
長崎市梅香崎女學校　廣津藤吉殿
佐世保市常盤町　村井競殿
東京府下淀橋柏木　齋藤うめ子殿
小石川區雜司ヶ谷　奧宮かず子殿
本鄕區丸山新町　喜安こま子殿
京橋區竹川町　遠藤はつ子殿
芝區神谷町　森律子殿
神田區錦町警察署　長野義則殿
東京府下淀橋柏木　三谷稱吉殿

淺草區山之宿町　大塚泉彌殿
本所區龜澤町　廣瀨修造殿
本所區三笠町大岡方　佐藤清殿
茨城縣豐浦町川尻　山形金之助殿
牛込區早稻田町　山岸照吉殿
神田區和泉町　渡邊精次殿
日本橋區坂本町　柏平藏殿
小石川區西古川町　石橋球三郎殿
牛込區東京學院　飯島泰德殿
牛込區東京學院　橋本正三殿
麻布區新堀町　澤野鐵郎殿
小石川區竹早町　林收藏殿
神田區三河町　田中善治殿
小石川區高田老松町　逸見由太郎殿
小石川區女子大學內　中村常子殿
小石川區女子大學內　宮崎千代子殿
小石川區女子大學內　手塚かね子殿
1120 Georgia St. Los Angeles Cal. U. S. A.　楠本六一殿
芝區白金明治學院　鄕司慥司殿
東京府南葛飾郡松江　鈴木治孝殿
東京府下西大久保　伊藤慶助殿
本所區松井町　永田信一殿
京橋區銀座　救世軍本營殿
神田區錦町明治館　松井浪八殿
神田區猿樂町內藤郎　松山すけ子殿
京都府竹野郡網野町　片西修一殿

謹賀新年

東京銀座
振五五三
警醒社書店

東京本郷春木町 警醒社支店

明治四十四年中出版圖書目錄

一月
村田勤編
慈愛之涙
上製壹圓八拾錢
並製壹圓五拾錢
郵稅拾貳錢

二月
村岡典嗣著
本居宣長
價壹圓五十錢
郵稅拾貳錢

三
井口丑二譯
歐洲救貧事業の大勢
價六拾錢
郵稅八錢

月
島貫兵太夫著
新苦學法
價四拾錢
郵稅四錢

四
小崎弘道著
基督教と我國體
價六錢
郵稅貳錢

月
宮川經輝著
人生の慰安
價壹圓
郵稅八錢

五月

二十世紀 聖書新釋 高橋五郎著 價九拾錢 郵税八錢

公娼全廢論 山室軍平著 價拾錢 郵税貳錢

六月

基督教と國家及道德 富永徳磨著 價九拾五錢 郵税八錢

青年への警告 山室軍平著 價拾錢 郵税貳錢

孔子及孔子教 住谷天來著 價四拾錢 郵税四錢

七月

續日本千蟲圖解 卷三 松村松年著 價五圓 郵税拾六錢

八月

九月

力行會とは何ぞや 島貫兵太夫著 價四拾錢 郵税四錢

子供の權利 田村直臣著 價五拾錢 郵税六錢

羅馬書註解 加藤直士著 價壹圓貳拾五錢 郵税拾貳錢

十月

婦人の心得 松村介石著 上製參拾五錢 並製參拾錢 郵税四錢

基督教の本質 小崎弘道著 價壹圓 郵税八錢

十一月

信仰美談 丹波ヨブ 松井文彌著 價八錢 郵税貳錢

小林富次郎傳 加藤直士著 價五拾錢 郵税六錢

基督教大辭典 高木壬太郎著 價拾五圓 郵税貳拾八錢

日記 吾家之歷史 中形五十錢 郵税八錢 小形四十錢 郵税六錢

十二月

臺灣甘蔗栽培法 菅井博愛著 價壹[illegible]圓 郵税八錢

小說 聖戰 松本雲舟譯 價壹圓拾錢 郵税貳拾錢

無聲の聲 宮川經輝著 價拾五錢 郵税四錢


LION
TOOTH PASTE
たとへ一日の旅行にも輕便なる
ライオン煉はみがき
を忘れ給ふな
煉製
ニッケル鐵入
定價五十錢
煉製押出管入定價二十錢
煉製
精円形鐵入
定價十五錢
ライオン煉歯磨は粉製として最も完全なる歯磨に更に特殊の原料を加へて精煉したるものにして爽快無比の香味を有し少量にして能く粉製多量に代り容器は美麗輕便にして家庭用旅行用には最も適當
本品御希望の方は各地小間物化粧品、薬店等にて御買求を乞ふ若し無之時は振替貯金又は郵券代用にて本舗へ御申込あれば早速御郵送申上候
發賣元
東京市神田區柳原河岸
振替口座東京二五二六
小林富次郎
支舖 大阪市東區博勞町二丁目 名古屋市傳馬町四丁目

(明治四十四年八月一日第三種郵便物認可)(明治四十五年一月一日納本)(毎月一回一日發行)